河内長野市文化財調査報告書第37輯

河内長野市埋蔵文化財調査報告書XIX

尾崎北遺跡
清水遺跡
上田町宿跡
栄町遺跡

２００３年３月

河内長野市教育委員会

序　　文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、豊かな自然に恵まれ、高野街道に代表される和歌山や奈良へ向う街道の要衝として発展してきた街です。この為市内には数多くの文化財が残されています。

この様な河内長野市も大阪市内への通勤圏に位置しているため住宅都市として発展してきました。この開発がもたらした文化財や自然に対する影響も大きいものがあります。特に、地下に眠る埋蔵文化財は開発と直接に結び付く大きな問題です。

遺跡に託されている河内長野の先人達のメッセージである文化遺産を保護・保存し、更には未来の市民へ伝えていく事は、現代に生きる私達の責務であります。河内長野市に於いては、重要な課題である開発と文化財保護との調和のため、開発に先立ち埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書は発掘調査の成果を収録しています。皆様が先人達のメッセージの一部でもある文化財に対するご理解を深めていただくとともに、文化財の保護・保存・研究するための資料として活用していただければ幸いです。

これらの発掘調査に協力していただきました施主の方々の埋蔵文化財への深いご理解に末尾ながら謝意を表すものです。

平成15年3月

河内長野市教育委員会
教育長　福　田　弘　行

例　　言

1．本書は平成14年度に河内長野市教育委員会が国庫補助事業として計画・実施した遺跡の発掘調査及び遺物整理報告書である。

2．調査は本市教育委員会教育部社会教育課主幹兼文化財保護係長尾谷雅彦を主担とし、同課文化財保護係鳥羽正剛、同課嘱託福田和浩を担当者として実施した。

3．調査及び本書の執筆は尾谷、鳥羽、福田が行なった。編集は河内長野市立ふれあい考古館館員松尾和代がこれを補佐した。文責は各文末に記している。

4．写真撮影は遺構については、尾谷・鳥羽・福田、遺物については河内長野市立ふれあい考古館館長中西和子が行なった。

5．発掘調査及び内業整理については以下の参加を得た。(敬称略)
阿部園子、内田(川島)伸子、大塚美幸、大西京子、喜多順子、斎田菜穂子、
高橋知佐子、杉本祐子、田川富子、中村(東田)幸子、枡本裕子、箕造加奈子、
牟田口京子、安間克巳

6．発掘調査については下記の方々の協力を得た。記して感謝する。(敬称略)
株式会社島田組、綾塔大作、谷　信和、福本正一、廣畑元一

7．本調査の記録は、スライドフィルムなどでも保管されており、広く一般の方々に利用されることを希望するものである。

凡　　例

1．本報告書に掲載されている標高はTPを基準としている。

2．土色は、「新版標準土色帖」1990年度版による。

3．平面測量は国家座標第Ⅵ系による５ｍメッシュを基準に実施したものである。

4．図中の北は磁北である。

5．遺構実測図の縮尺は、１/30・１/40・１/50・１/60である。

6．遺構名は下記の略記号を用いた。
ＳＢ‥‥掘立柱建物　　ＳＤ‥‥溝　　ＳＥ‥‥井戸　　ＳＩ‥‥竪穴住居
ＳＫ‥‥土坑　　ＳＰ‥‥ピット　　ＳＵ‥‥集石

7．遺物実測図の縮尺は、土器１/４、石製品１/４、石器２/３、鉄器１/３を基準としているが、遺物の状況により変えている。

8．須恵器・瓦器・瓦質土器・須恵質土器・陶磁器の断面は黒塗り、弥生土器・土師器・土師質土器・石器の断面は白抜き、鉄器の断面は斜線である。

9．須恵器の編年は中村浩氏の『陶邑』の編年による。

10．遺物番号と写真図版の番号は一致する。

目　　次

序　　文
例　　言
凡　　例
目　　次
挿図目次
表 目 次
図版目次
第１章　調査の状況 …… 1
第２章　調査の結果 …… 5
　第１節　尾崎北遺跡（OSN97－１）……（尾谷）…… 5
　　1　はじめに …… 5
　　2　層序 …… 5
　　3　遺構と遺物 …… 7
　　4　まとめ …… 12
　第２節　清水遺跡（SMZ02－２）……（鳥羽）…… 14
　　1　概略 …… 14
　　2　調査の方法 …… 14
　　3　遺物 …… 15
　　4　まとめ …… 15
　第３節　上田町宿跡（UDS02－１）……（鳥羽）…… 16
　　1　概略 …… 16
　　2　調査の方法 …… 16
　　3　まとめ …… 16
　第４節　栄町遺跡（SKC02－１）……（福田）…… 17
　　1　概略 …… 17
　　2　調査の方法 …… 18
　　3　層序 …… 18
　　4　遺構と遺物 …… 19
　　5　まとめ …… 20

挿　図　目　次

第１図　河内長野市遺跡分布図（1/40000）…… 3
尾崎北遺跡（OSN97－１）
第２図　調査区位置図（1/5000）…… 5
第３図　遺構配置図（1/60）…… 6
第４図　調査区土層断面実測図（1/60）…… 7
第５図　ＳＢ１出土遺物実測図 …… 7
第６図　ＳＢ１遺構実測図（1/60）…… 7
第７図　ＳＥ１遺構実測図（1/30）…… 8

第８図　ＳＥ１出土遺物実測図①　…… 8
第９図　ＳＥ１出土遺物実測図②　…… 9
第10図　ＳＩ１遺構実測図（1/40）…… 10
第11図　ＳＩ１出土遺物実測図…… 10
第12図　ＳＫ１遺構実測図（1/30）及び出土遺物実測図　…… 11
第13図　ＳＵ１遺構実測図（1/30）…… 11
第14図　ＳＵ１出土遺物実測図…… 11
第15図　包含層出土遺物実測図…… 12
清水遺跡（SMZ02－２）
第16図　調査区位置図（1/3000）…… 14
第17図　第１・第２調査区包含層出土遺物実測図…… 15
上田町宿跡（UDS02－１）
第18図　調査区位置図（1/3000）…… 16
栄町遺跡（SKC02－１）
第19図　調査区位置図（1/5000）…… 17
第20図　遺構配置図（1/50）…… 18
第21図　調査区土層断面実測図（1/50）…… 19
第22図　黒色包含層出土遺物実測図および写真…… 20
第23図　栄町遺跡周辺遺跡土層断面模式図…… 21
第24図　栄町遺跡周辺字名および落ち込み範囲想定図…… 22
第25図　河内長野市内弥生時代遺跡分布図…… 23

表　目　次

第１表　発掘届出件数月別一覧表　…… 1
第２表　主な発掘調査一覧表　…… 1
第３表　河内長野市遺跡地名表　…… 4
第４表　河内長野市内の弥生時代遺跡　…… 23

図　版　目　次

尾崎北遺跡（OSN97－１）
図版１　調査区全景（南東から）、（北西から）
図版２　ＳＢ１（南から）、ＳＥ１（北西から）
図版３　ＳＩ１（南東から）、ＳＩ１竈（南東から）
図版４　ＳＫ１（北西から）、ＳＵ１（南から）
図版５　ＳＢ１（１）、ＳＥ１（２～６・10・13・16・17・20・25～35）
図版６　ＳＥ１（７～９・11・12・14・15・18・19・21～23）
図版７　ＳＥ１（24・鉄滓）、ＳＩ１（36～42）、ＳＫ１（43～45）
図版８　ＳＫ１（46・47）、ＳＵ１（48）、包含層（49～64）
清水遺跡（SMZ02－２）
図版９　第１調査区全景（南から）、第２調査区全景（北から）
上田町宿跡（UDS02－１）
図版10　調査風景、調査坑断面（南から）
栄町遺跡（SKC02－１）
図版11　調査区全景（東から）、調査区西壁土層

第１章　調査の状況

平成14年の文化財保護法57条の２および３の発掘届及び発掘通知の件数は、総数93件、そのうち発掘届66件、発掘通知27件である。今年は遺跡範囲拡張に伴う新規発見届が２件あった。

今年の発掘届にみられる原因者の状況は、駅前整備事業やほ場整備などの大規模公共事業と共に個人住宅の新築及び改築なども多くあった。

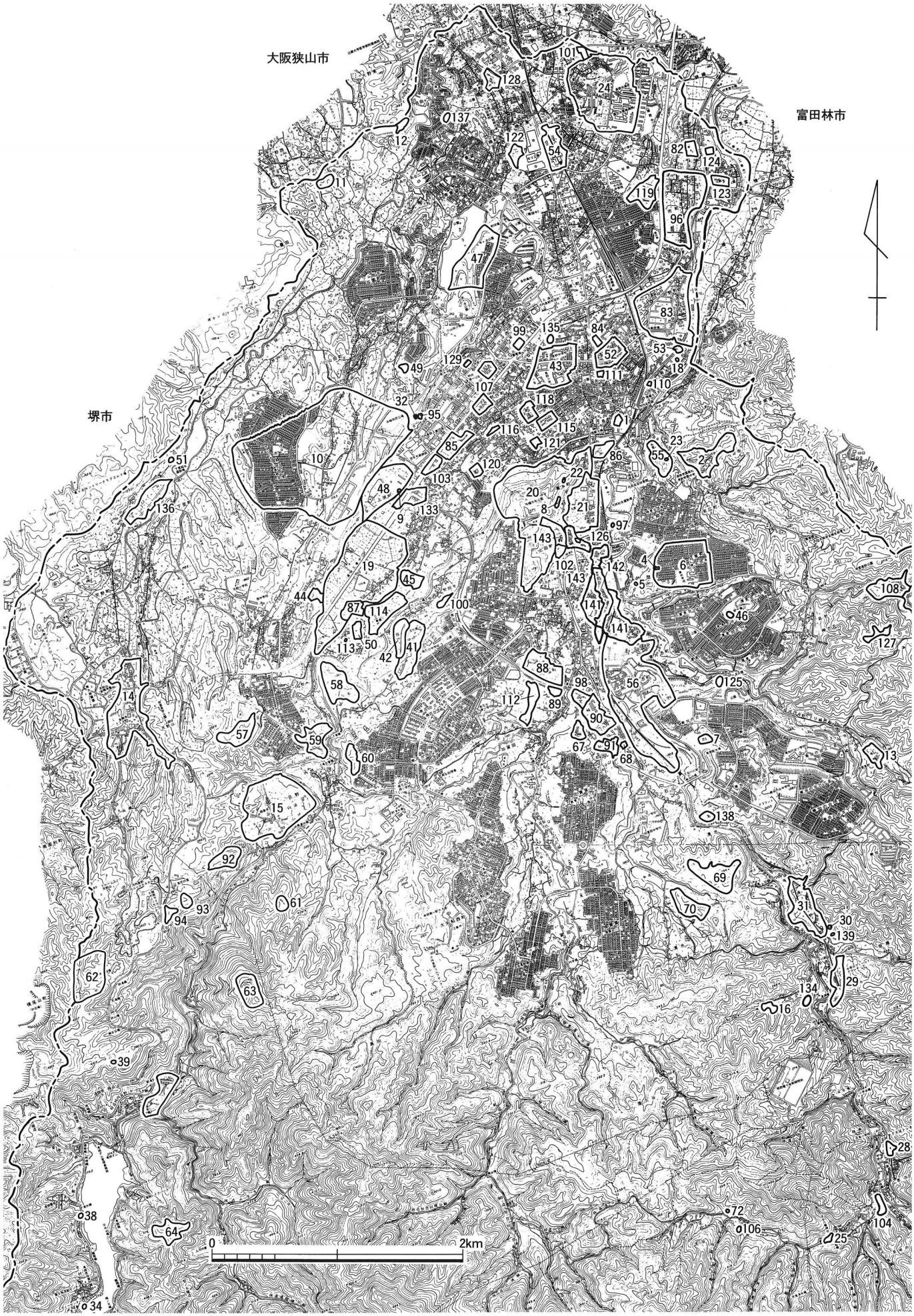
第１表　発掘届出件数月別一覧表（平成14年１月～12月）

	平成13年度			平成14年度									総計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
発掘届(57条の2)	4	7	10	6	8	5	4	5	2	5	7	3	66
発掘通知(57条の3)	3	2	1	3	1	0	0	7	2	2	1	5	27
発見届(57条の5)					1						1		2
発見通知(57条の6)													0

第２表　主な発掘調査一覧表（平成14年１月～12月）

遺跡名 調査名	調査開始日	申請者	申請面積	用途	種別	区分	備考
三日市宿跡・三日市北遺跡 ＭＩＮ01-8	H13.10.29 ～H14.3.20	河内長野市	1,420.82㎡	市街地再開発事業	発掘	原因者	弥生時代の竪穴住居・柱穴・溝・土坑、古墳時代の溝、近世の土坑／弥生土器・土師器・須恵器・近世陶磁器・瓦
高向遺跡 ＴＫＯ01-２	H13.12.18 ～H14.3.26	(社福)生登福祉会	2,000㎡	老人保健施設	発掘	原因者	古代・中世の溝・土坑／縄文時代の石器、古墳時代～奈良時代の須恵器、中世の瓦器
三日市遺跡 ＭＩＣ01-4	H14.1.8	個人	134.4㎡	個人住宅	立会	原因者	遺構・遺物なし
西高野街道 ＮＫＲ01-１	H14.1.31	個人	196.14㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
塩谷遺跡	H14.2.20	国立大阪南病院	59.129㎡	防火水槽	発掘	原因者	遺構・遺物なし
日野観音寺遺跡 ＨＫＴ01-２・３	H14.3.4 ～3.29	河内長野市	77,000㎡	ほ場整備	発掘	原因者	中世の溝、土坑、窯状遺構、ピット／縄文時代のサヌカイト製石器、中世の土器、瓦
日野観音寺遺跡	H14.3.7	(宗)観音寺	165.28㎡	側溝	立会	原因者	遺構・遺物なし
西代藩陣屋跡 ＮＤＨ01-３	H4.3.15	個人	215.74㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
東高野街道 ＨＫＲ01-１	H14.3.15	個人	182.75㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
喜多町遺跡 ＫＴＣ01-１	H14.3.15	個人	1,472.83㎡	造成工事	発掘	原因者	遺構・遺物なし
日野観音寺遺跡 ＨＫＴ02-１	H14.4.12 ～7.31	河内長野市	8,561.53㎡	公共建物	発掘	原因者	中世の溝、土坑、窯状遺構、ピット／縄文時代の石器、中世の土師質土器、瓦器、青磁、銅銭
清水遺跡 ＳＭＺ02-１	H14.4.15	大阪府富田林土木事務所	500㎡	道路	立会	原因者	遺構・遺物なし
長池窯跡群 ＮＩＫ02-１	H14.4.15	個人	50.52㎡	分譲住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
長池窯跡群 ＮＩＫ02-２	H14.4.18	個人	297.09㎡	個人住宅	立会	原因者	遺構・遺物なし
寺元遺跡 ＴＲＭ02-１	H14.4.25	個人	301.49㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市宿跡・三日市北遺跡 ＭＩＮ02-１	H14.4.30 ～6.4	河内長野市	1.6ha	市街地再開発事業	発掘	原因者	中世のピット・土坑・溝／中世の瓦器・土師質土器
西高野街道 ＮＫＲ02-１	H14.5.1	個人	150.80㎡	個人住宅・擁壁	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市遺跡 ＭＩＣ02-1	H14.5.7	民間	349.30㎡	集会所	発掘	原因者	遺構・遺物なし

遺跡名 調査名	調査開始日	申請者	申請面積	用途	種別	区分	備考
上原遺跡 ＵＨＲ02-１	H14.5.9	個人	457.93㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
市町東遺跡 ＩＣＥ02-１	H14.5.15	個人	259.75㎡	個人住宅・擁壁	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市宿跡・三日市北遺跡 ＭＩＮ02-２	H14.5.17 ～12.25	河内長野市	1.6ha	市街地再開発事業	発掘	原因者	弥生時代の竪穴住居・柱穴・溝・土坑、近世の柱穴等／弥生土器・土師器・須恵器・近世陶磁器・瓦
日野観音寺遺跡 ＨＫＴ02-2	H14.5.20 ～9.13	河内長野市	77,000㎡	ほ場整備	発掘	原因者	中世の溝、土坑、窯状遺構、ピット／縄文時代の石器、中世の土器、瓦
高向遺跡 ＴＫＯ02-1	H14.5.20	個人	162.87㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市宿跡・三日市北遺跡 ＭＩＮ02-１	H13.5.23	個人	65.57㎡	兼用住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市遺跡 ＭＩＣ02-２	H14.5.28	個人	265.64㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
尾崎北遺跡 ＯＳＮ02-１	H14.6.10	個人	105.36㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
尾崎北遺跡 ＯＳＮ02-２	H14.6.10	個人	105.79㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市遺跡 ＭＩＣ02-３	H14.6.17	個人	233.52㎡	個人住宅	立会	原因者	遺構・遺物なし
清水遺跡 ＳＭＺ02-２	H14.6.26 ～6.27	個人	903.73㎡	個人住宅	発掘	国庫	本書掲載
上田町宿跡 ＵＤＳ02-１	H14.6.27 ～6.28	個人	293.94㎡	個人住宅	発掘	国庫	本書掲載
高野街道 ＫＹＲ02-１	H14.7.4	個人	1,351.14㎡	倉庫	発掘	原因者	遺構・遺物なし
高向遺跡 ＴＫＯ02-２	H14.7.4	個人	450.09㎡	個人住宅	発掘	原因者	古代の土師器、中世の瓦器
長池窯跡群	H14.7.16	個人	92.75㎡	個人住宅	立会	原因者	遺構・遺物なし
長池窯跡群	H14.8.6	個人	421.35㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
大師山遺跡	H14.8.19	河内長野市	27,566㎡	学校	発掘	原因者	遺構・遺物なし
西高野街道・膳所藩代官所跡 ＺＺＨ02-１	H14.8.20	個人	414.28㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
市町東遺跡、東高野街道 ＩＣＥ02-１	H14.9.9	個人	189.91㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市北遺跡 ＭＩＮ02-６	H14.9.12	個人	173.44㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
天神社遺跡	H14.9.18	河内長野市	1,434㎡	道路	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市北遺跡 ＭＩＮ02-３	H14.9.24	個人	203.36㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
三日市北遺跡 ＭＩＮ02-５	H14.10.2	個人	40㎡	店舗	立会	原因者	遺構・遺物なし
高向遺跡 ＴＫＯ02-３	H14.10.23	個人	849.2㎡	店舗	発掘	原因者	中世の土坑／土師質土器、瓦器
塩谷遺跡	H14.10.23	個人	126.41㎡	個人住宅	立会	原因者	遺構・遺物なし
塩谷遺跡 ＳＩＯ02-１	H14.11.6	民間事業者	481.45㎡	分譲住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
松林寺遺跡 ＳＲＴ02-1	H14.11.19	(宗)松林寺	1,270.9㎡	擁壁	発掘	原因者	遺構・遺物なし
菱子尻遺跡 ＨＫＳ02-1	H14.11.25	民間事業者	489.60㎡	店舗	発掘	原因者	遺構・遺物なし
高向遺跡 ＴＫＯ02-４	H14.11.25	(社福)生登福祉会	3,181.64㎡	広告塔	立会	原因者	遺構・遺物なし
喜多町遺跡 ＫＴＣ02-１	H14.11.29	河内長野市	9.42㎡	下水道	立会	原因者	遺構・遺物なし
栄町遺跡 ＳＫＣ02-１	H14.12.2 ～12.5	個人	242.93㎡	個人住宅	発掘	原因者	本書掲載
市町東遺跡	H14.12.3	個人	176.45㎡	個人住宅	発掘	原因者	遺構・遺物なし
高向神社遺跡 ＴＫＪ02-１	H14.12.9 ～12.26	河内長野市	4,000㎡	防火水槽	発掘	原因者	近世の溝、土坑、ピット／中世の瓦質土釜、近世の陶磁器、瓦
喜多町遺跡 ＫＴＣ02-２	H14.12.16	河内長野市	81.01㎡	下水道	立会	原因者	遺構・遺物なし
三日市北遺跡・三日市宿跡 ＭＩＮ02-４	H14.12.18	㈱河内長野ガス	18㎡	ガス	立会	原因者	遺構・遺物なし



第１図　河内長野市遺跡分布図（1/40000）

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町以降
2	河合寺遺跡	社寺	平安以降
3	観心寺遺跡	社寺	平安以降
4	大師山古墳	古墳	古墳（前期）
5	大師山南古墳	古墳？	古墳（後期）
6	大師山遺跡	集落・生産	弥生（後期）・平安
7	興禅寺遺跡	社寺	中世以降
8	烏帽子形八幡神社遺跡	社寺	室町以降
9	塚穴古墳	古墳・墳墓	古墳（後期）・近世
10	長池窯跡群	生産	平安～近世
11	小山田1号古墓	墳墓	奈良
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良
13	延命寺遺跡	社寺	平安以降
14	天野山金剛寺遺跡	社寺・墳墓	平安以降
15	日野観音寺遺跡	社寺・生産	平安～中世
16	地蔵寺遺跡	社寺	中世以降
(17)	岩湧寺遺跡	社寺	平安以降
18	五ノ木古墳	古墳	古墳（後期）
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世
20	烏帽子形城跡	城館・生産	中世～近世
21	喜多町遺跡	集落	縄文・古墳～中世
22	烏帽子形古墳	古墳	古墳（後期）
23	末広窯跡	生産	中世
24	塩谷遺跡	散布地	縄文～近世
25	流谷八幡神社	社寺	平安以降
26	蟹井淵南遺跡	散布地	中世
27	蟹井淵北遺跡	散布地	中世
28	天見駅北方遺跡	散布地	中世
29	千早口駅南遺跡	社寺	中世
30	岩瀬薬師寺遺跡	社寺	中世以降
31	清水遺跡	散布地	中世
32	伝「仲哀廟」古墳	古墳？	
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世
(34)	滝畑埋墓	墳墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村観音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村観音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	滝尻弥勒堂跡	社寺	近世
(40)	宮の下内墓	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳	古墳
42	宮山遺跡	集落	縄文・奈良
43	西代藩陣屋跡	散布地・城跡	飛鳥～奈良・江戸
44	上原町墓地	墳墓	近世
45	惣持寺跡	散布地・社寺	縄文・奈良・鎌倉
46	栗山遺跡	祭祀	中世～近世
47	寺ケ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	旧石器～近世
49	住吉神社遺跡	社寺	近世以降
50	高向神社遺跡	社寺	中世以降
51	青が原神社遺跡	社寺	中世以降
52	膳所藩代官所跡	城館	江戸
53	双子塚古墳跡	古墳	古墳
54	菱子尻遺跡	散布地・社寺	縄文～近世
55	河合寺城跡	城館	中世
56	三日市遺跡	集落・古墳他	旧石器～近世
57	日の谷城跡	城館	中世
58	高木遺跡	散布地	縄文
59	汐の山城跡	城館	中世
60	峰山城跡	城館	中世
61	稲荷山城跡	城館	中世
62	国見城跡	城館	中世
63	旗蔵城跡	城館	中世
64	権現城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	中世以降
(66)	葛城第15経塚	経塚	平安以降
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世以降
68	庚申堂遺跡	社寺	近世以降
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16経塚	経塚	平安以降

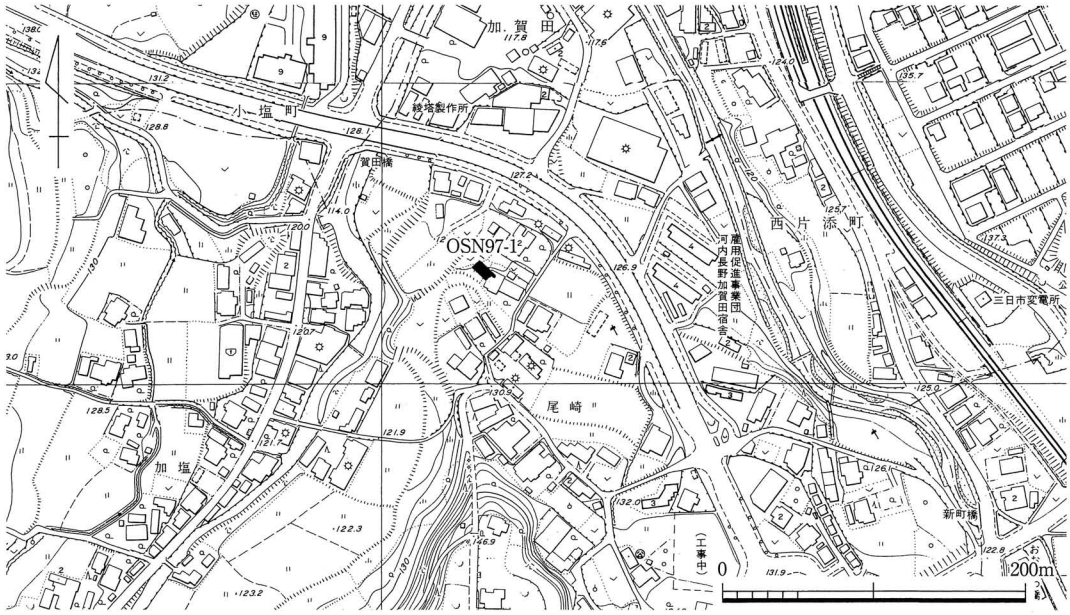
番号	文化財名称	種類	時代
(73)	葛城第18経塚	経塚	平安以降
(74)	葛城第19経塚	経塚	平安以降
(75)	笹尾塞	城館	中世
(76)	大沢塞	城館	中世
(77)	三国山経塚	経塚	平安以降
(78)	光滝寺遺跡	社寺	中世以降
(79)	猿子城跡	城館	中世
80	蟹井淵神社遺跡	社寺	中世以降
(81)	川上神社遺跡	社寺	中世以降
82	千代田神社遺跡	社寺	中世以降
83	向野遺跡	集落・生産	縄文・平安～近世
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	集落	中世
86	大日寺遺跡	社寺・古墳・墳墓	弥生～中世
87	高向南遺跡	散布地	鎌倉
88	小塩遺跡	集落	縄文～奈良
89	加塩遺跡	集落	古墳（後期）
90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウノマエ遺跡	城館？	中世
92	仁王山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	生産	近世
96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
97	上田町窯跡	生産	近世
98	尾崎北遺跡	集落	古墳～中世
99	西之山町遺跡	散布地	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野塚遺跡	墳墓	中世
(105)	葛城第17経塚	経塚	平安以降
106	薬師堂跡	社寺	中世以降
107	野作遺跡	生産	中世
108	寺元遺跡	集落・社寺	奈良・中世
(109)	鳩原遺跡	散布地	中世
110	法師塚古墳跡	古墳	古墳
111	山上講山古墳跡	古墳	古墳
112	西浦遺跡	集落	古墳・中世・近世
113	地福寺跡	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
115	栄町遺跡	散布地	弥生・古墳・中世
116	錦町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	縄文・中世
118	錦町北遺跡	集落	弥生・中世・近世
119	市町西遺跡	集落	縄文・中世
120	栄町南遺跡	集落	中世
121	栄町東遺跡	散布地	弥生・中世
122	楠町東遺跡	散布地	弥生
123	汐の宮町南遺跡	散布地	弥生・奈良
124	汐の宮町遺跡	散布地	中世
125	神ガ丘近世墓	墳墓	近世
126	増福寺	社寺	中世以降
127	三昧城遺跡	墳墓・城跡	中世・近世
128	松林寺遺跡	社寺	近世以降
129	昭栄町遺跡	散布地	中世
*130	東高野街道	街道	平安以降
*131	西高野街道	街道	平安以降
*132	高野街道	街道	平安以降
133	上原東遺跡	散布地	弥生・中世・近世
134	地蔵寺東方遺跡	墳墓	鎌倉
135	本多町北遺跡	散布地	中世
136	下里町遺跡	散布地	古墳・中世
137	あかしあ台遺跡	散布地	近世
138	岩瀬北遺跡	集落	中世
139	岩瀬近世墓地	墳墓	近世
140	昭栄町東遺跡	散布地・池跡	縄文・中世・近世
141	三日市北遺跡	集落	弥生～中世
142	三日市宿跡	宿跡に伴う街並	中世～近世
143	上田町宿跡	宿跡に伴う街並	中世～近世
144	滝尻遺跡	散布地	縄文・古代・中世

（　）は地図範囲外　＊は街道につき地図上にプロットせず

第3表　河内長野市遺跡地名表

第２章　調査の結果

第１節　尾崎北遺跡（OSN97－１）



第２図　調査区位置図（1/5000）

１　はじめに

遺跡は大阪府河内長野市加賀田357番地他に所在する。石川の支流加賀田川が天見川と合流する付近、右岸の河岸段丘上にひろがる。標高は約127mを測る。

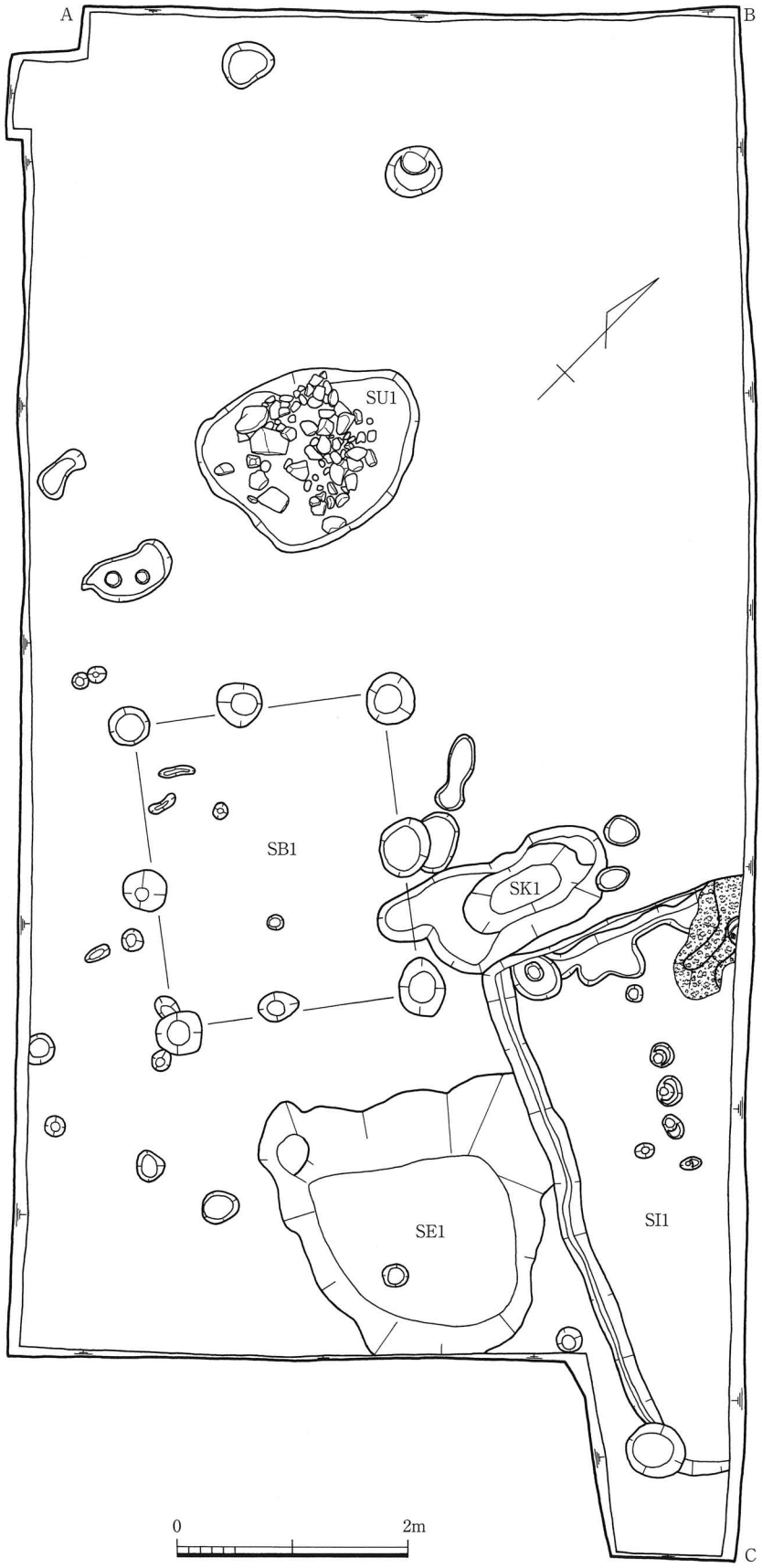
遺跡発見の契機となったのは昭和62年、国道371号のバイパス工事で、古墳時代後期を中心とした遺物が出土したことによる。

本次調査は民間開発に伴う宅地造成地内の約80㎡について、平成９年８月21日から８月29日まで実施した。

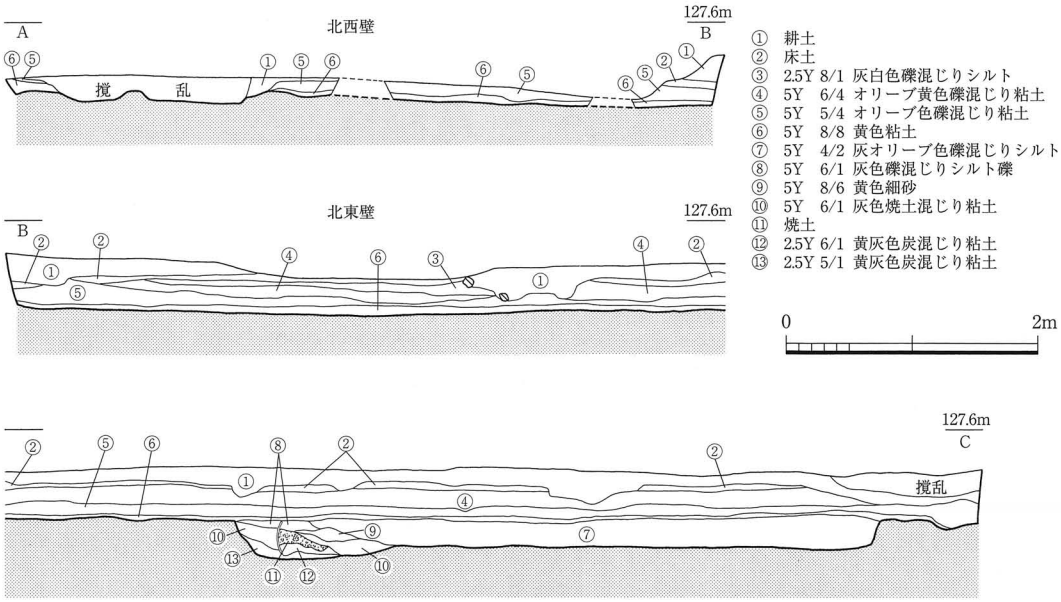
２　層序

調査の結果、地表下約0.3～0.4mで地山面が確認され、遺構が検出された。遺構は狭い調査区にもかかわらず竪穴住居、掘立柱建物、井戸、土坑など各種が確認された。

層序は盛土を除く７層からなり、上層から耕土(層厚0.2m)、床土(層厚0.1m)、灰白色礫混じりシルト(層厚0.1m)、オリーブ黄色礫混じり粘土(層厚0.15m)、オリーブ色礫混じり粘土(層厚0.1m)、黄色粘土(層厚0.05m)、灰オリーブ色礫混じりシルト(層厚0.3m)の順に堆積していた。



第３図　遺構配置図（1/60）



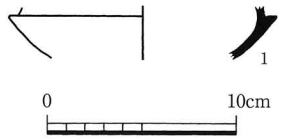
第４図　調査区土層断面実測図（1/60）

3　遺構と遺物

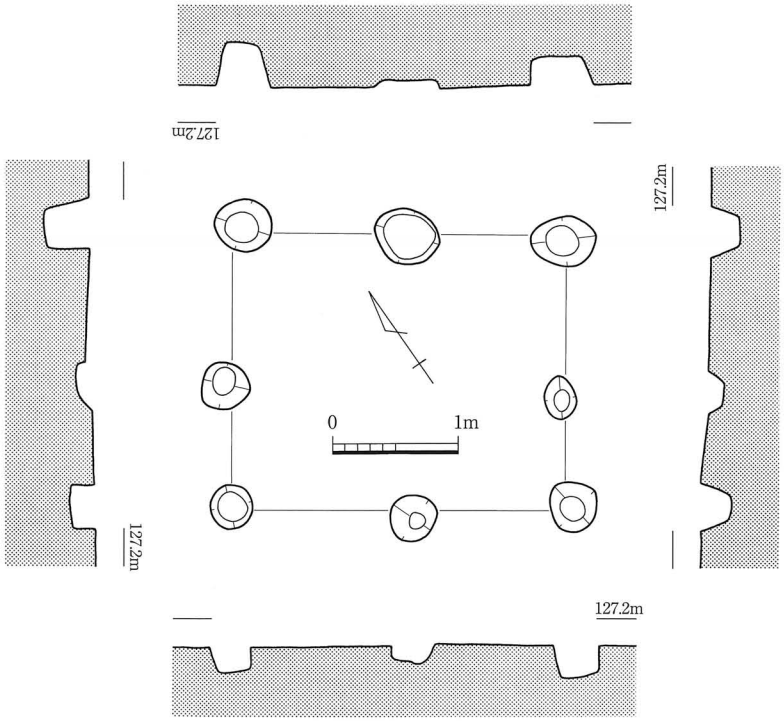
（1）掘立柱建物

［ＳＢ１］（第５・６図、図版２・５）

調査区の中央で検出した桁行２間(2.6m)×梁行２間(2.2m)の建物である。桁行の方向はN－55.5°－Wを示す。柱間は桁行1.3m、梁行は1.2mと１mである。柱穴は確認できなかったが掘形は平均径が約0.4mで、深さは４隅の柱穴が深く約0.2～0.4m、



第５図　ＳＢ１出土遺物実測図



第６図　ＳＢ１遺構実測図（1/60）

その他は0.1mを測った。棟は北から大きく西に振った建物である。

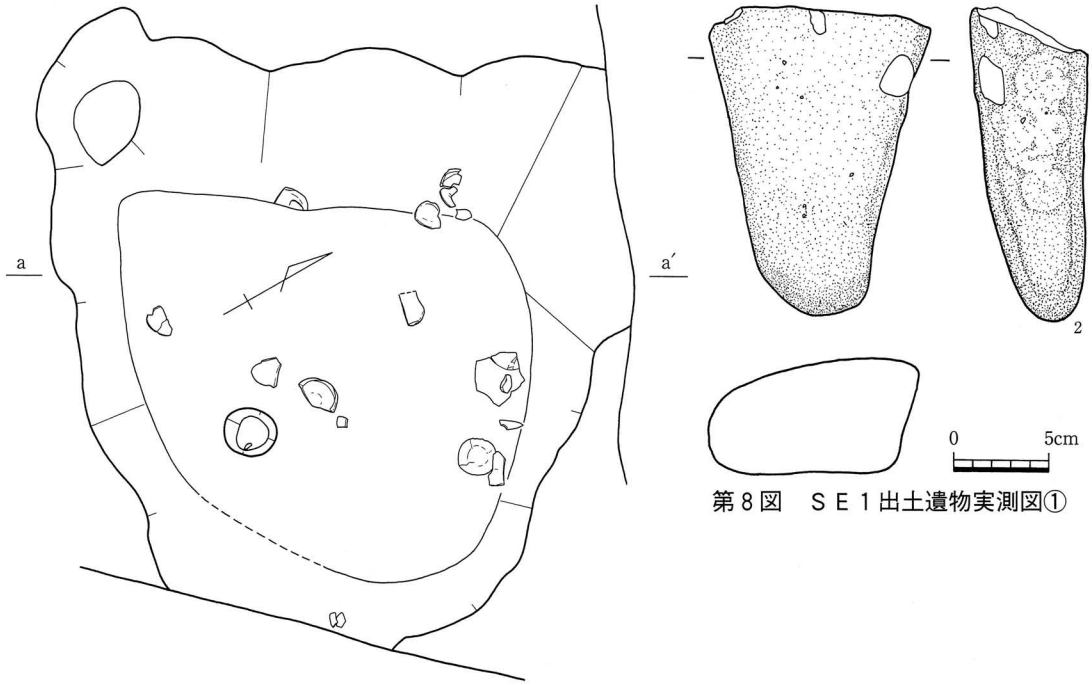
遺物は南西隅の柱穴から須恵器の坏身(１)が出土した。

（２）井戸

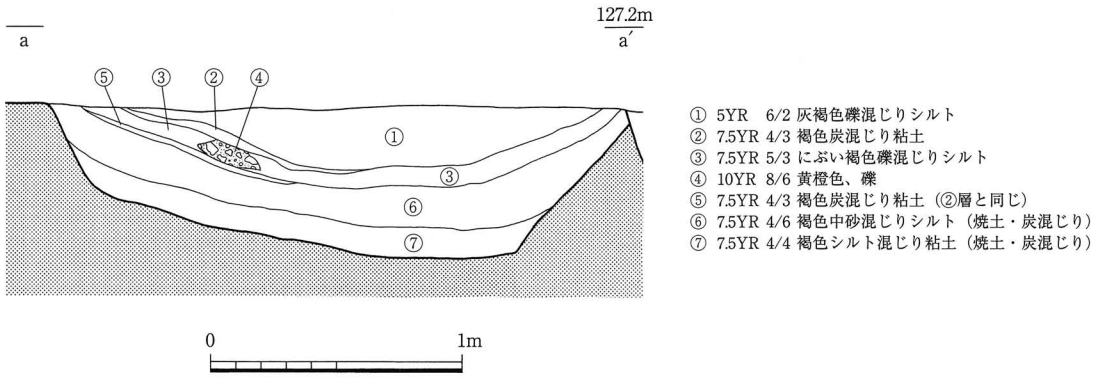
［ＳＥ１］（第７～９図、図版２・５～７）

ＳＩ１の南側に位置し、ＳＩ１によって肩部が一部切られている。平面形は楕円形を呈する。残存規模は長径2.35m、短径2.1m、深さ0.6mを測る。埋土は上層から灰褐色礫混じりシルト、褐色炭混じり粘土、にぶい褐色礫混じりシルト(一部礫)、褐色炭混じり粘土、褐色中砂混じりシルト(焼土、炭混じり)、褐色シルト混じり粘土(焼土、炭混じり)が堆積していた。堆積土には中砂や礫が混じり、流速のある水流によって堆積したことを示している。

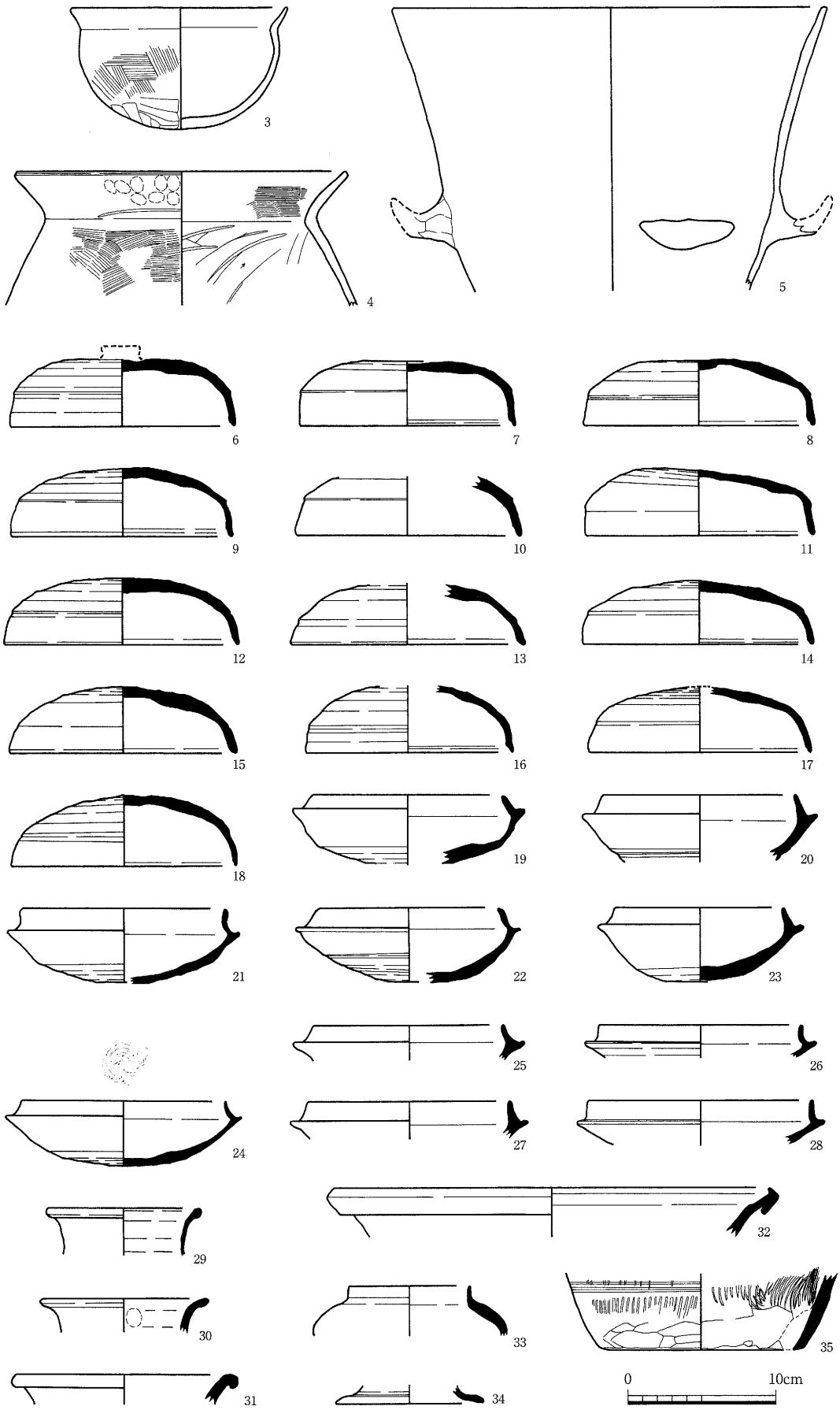
遺物は砥石(２)が出土し、土師器では鉢(３)・甕(４)・甑(５)が図示できた。須恵器では坏蓋(６～18)・坏身(19～28)・壺(29)・短頸壺(33)・甕口縁部(30～32)・脚部(34)・楕円形蒸気孔の甑(35)がある。



第８図　ＳＥ１出土遺物実測図①



第７図　ＳＥ１遺構実測図（1/30）



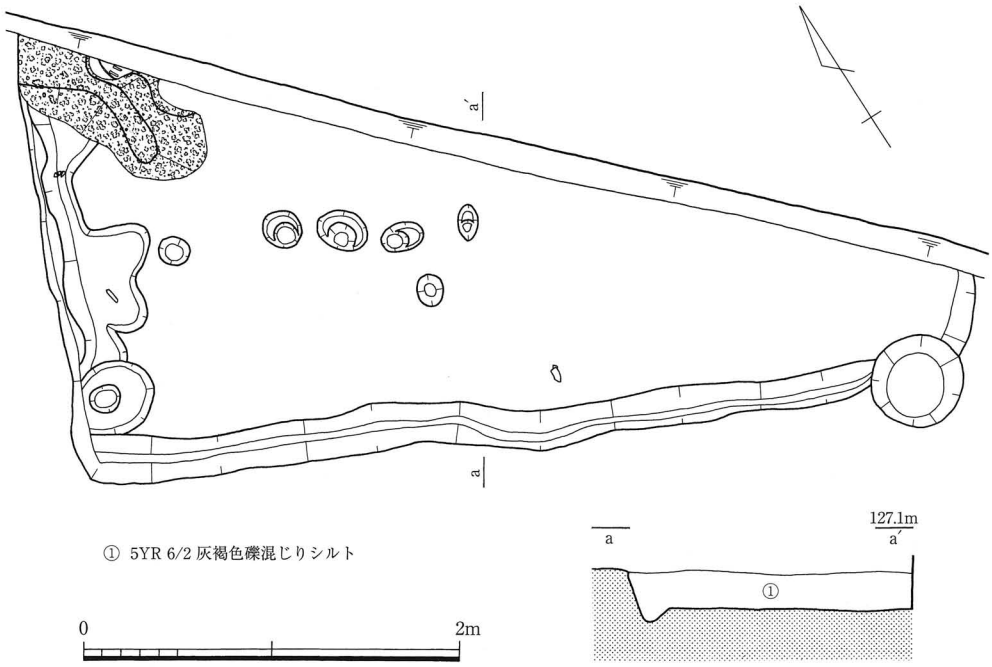
第９図　ＳＥ１出土遺物実測図②

（3）竪穴住居

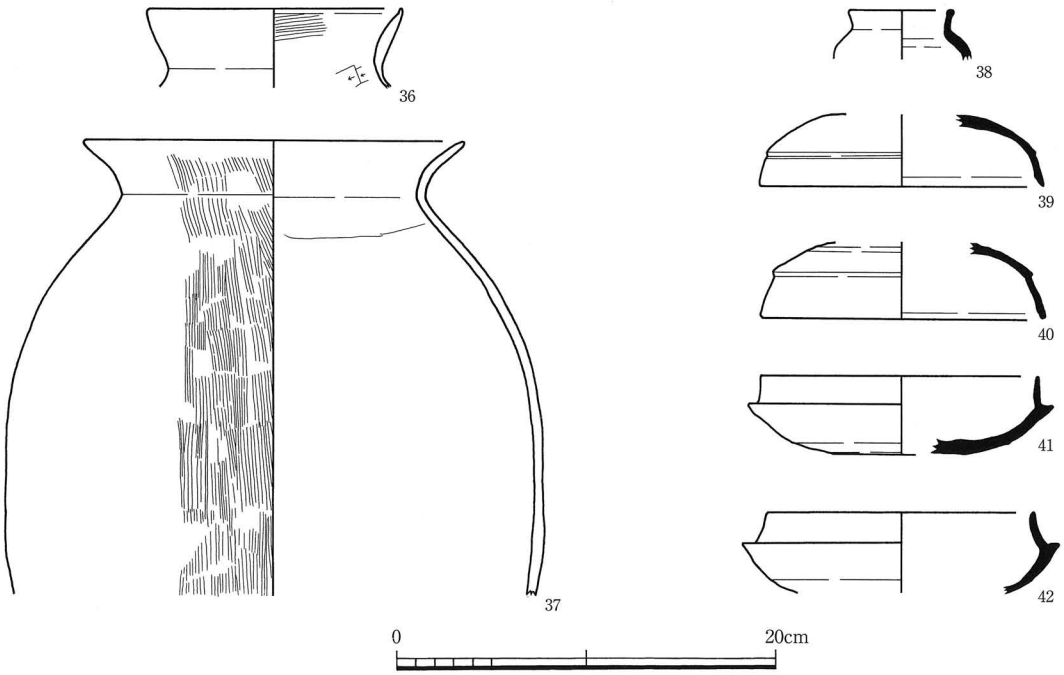
［ＳＩ１］（第10・11図、図版３・７）

全体の約１／３が検出された方形の竪穴住居で、他の部分は調査区外にひろがるため、全容は判明しない。規模は南側辺約4.9m、西側辺検出長2.5m、東側辺検出長0.5m、壁高0.4mを測る。また、壁面に沿って西側辺と南側辺で壁溝を検出した。壁溝は幅0.2m、深さ0.08mを測った。南側辺方向はN－60°－Wを示す。

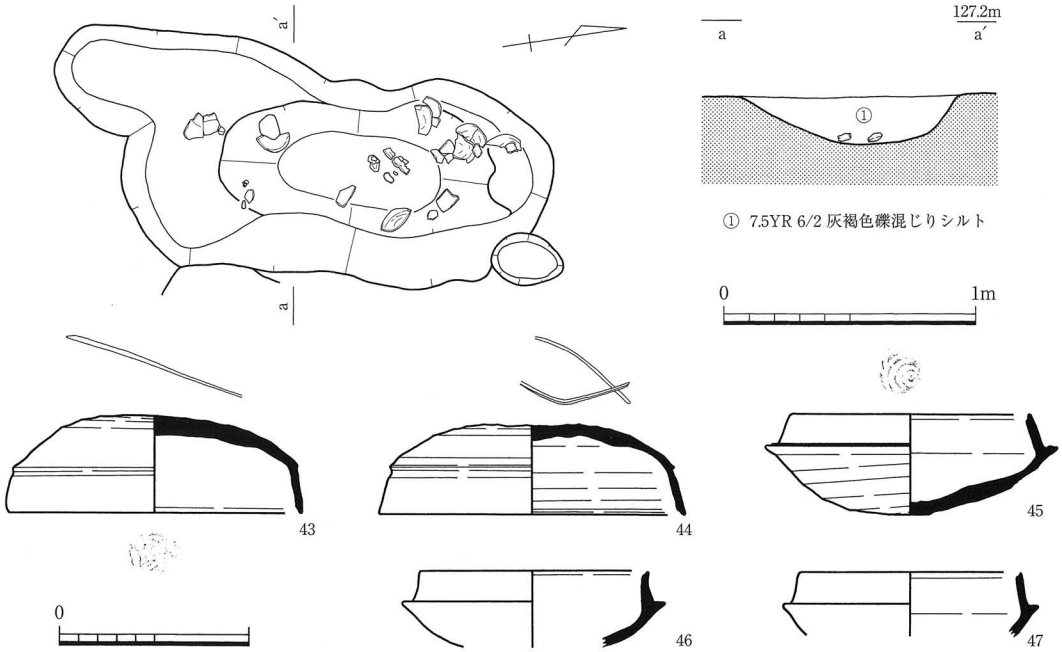
西側辺中央付近に位置すると思われるところにおいて粘土で造られた造り付けのカマドの一部が検出されたが、北側部分は調査区外に広がるようであり、全容は判明しない。検



第10図　ＳＩ１遺構実測図（1/40）



第11図　ＳＩ１出土遺物実測図



第12図　ＳＫ１遺構実測図（1/30）及び出土遺物実測図

出規模は長軸１ｍ、短軸0.5m、高さ0.3mを測り、このカマドの焚口付近に相当する部分には土師器の甕(37)が使用されていた。

住居内からは明確な柱穴は検出されず、調査区外にあるようである。

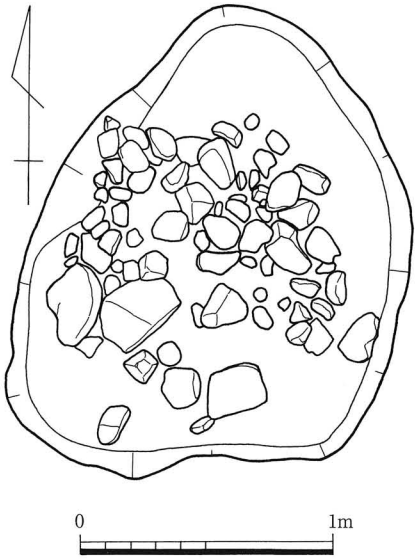
遺物は灰褐色礫混じりシルトの埋土から出土している。土師器では甕(36 ・ 37)、須恵器では坏蓋(39 ・ 40)・坏身(41 ・ 42)・短頸壺(38)が図示できた。

（４）土坑

［ＳＫ１］（第12図、図版４・７・８）

ＳＩ１の西側に接するように検出された。平面形は不定形である。規模は長径1.7m、短径0.8m、深さ0.15mを測った。埋土は灰褐色礫混じりシルトの一層であった。

遺物は須恵器の坏蓋(43 ・ 44)・坏身(45～47)が図示できた。

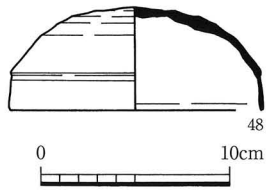


第13図　ＳＵ１遺構実測図（1/30）

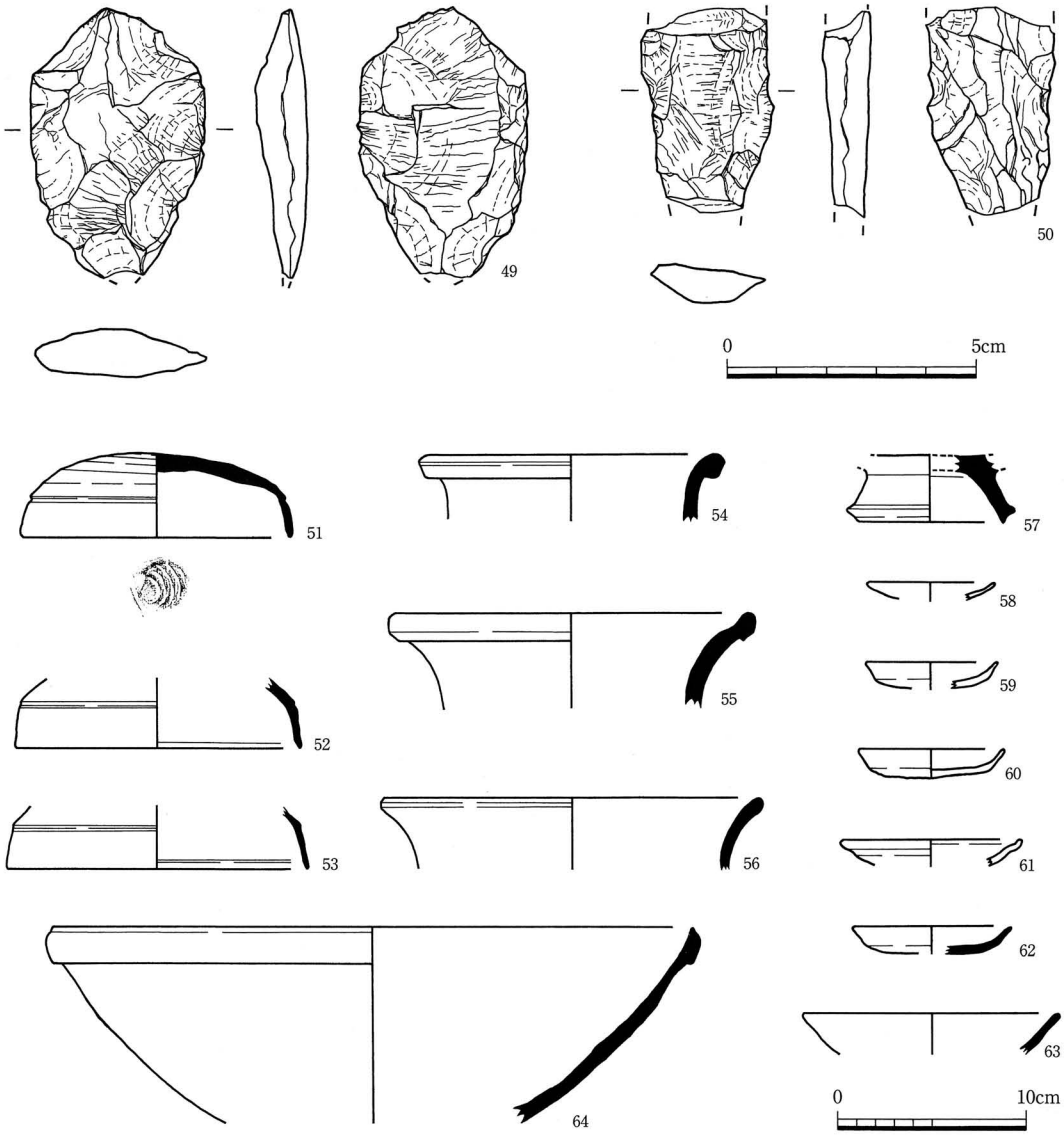
（５）集石土坑

［ＳＵ１］（第13・14図、図版４・８）

ＳＢ１の西側１ｍで検出された。平面形は長楕円形を呈する。規模は長径1.95m、短径1.5m、深さ0.1mを測った。土坑内部から最大50×35×10cmの河原石が多く検出された。



第14図　ＳＵ１出土遺物実測図



第15図　包含層出土遺物実測図

遺物は須恵器の坏蓋(48)が図示できた。

（6）包含層　（第15図、図版8）

遺構以外からは、サヌカイト製の削器(49)・石剣(50)が出土している。土器類では、やはり須恵器が主に出土し、坏蓋(51～53)・壺口縁部(54・55)・甕口縁部(56)・脚台(57)が図示できた。他に若干の土師質土器皿(58～61)、瓦器皿(62)・椀(63)、須恵質土器鉢(64)などの中世土器が出土した。

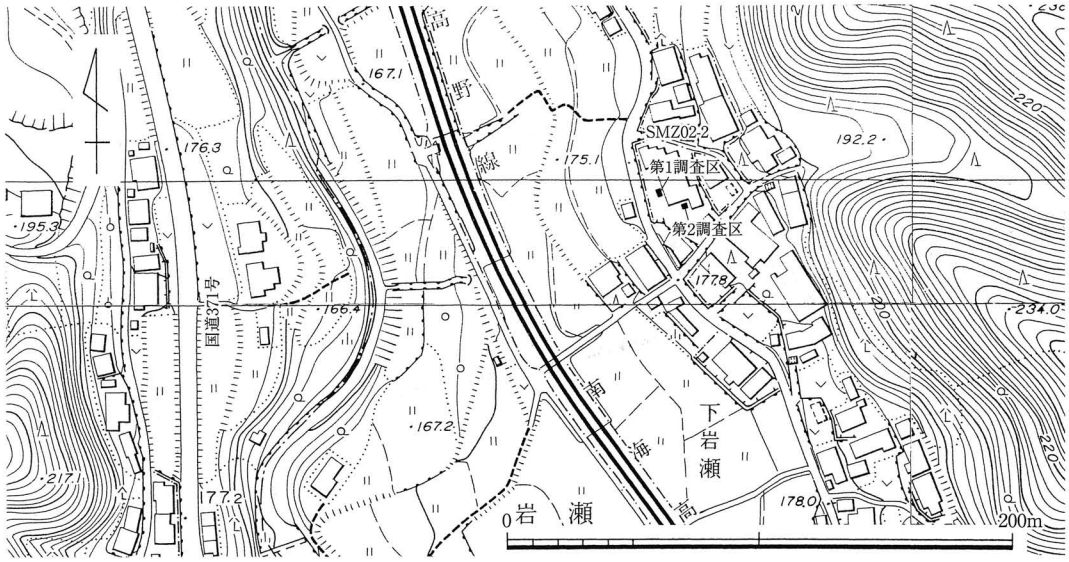
4　まとめ

遺構や包含層から出土する遺物の大部分は、須恵器や土師器であった。遺跡の時代は、出土した須恵器が陶邑編年２－２と２－３期に相当することから古墳時代後期(６世紀中頃)と思われる。

各遺構の時期差はあまりないが、ＳＩ１が新しく、ＳＢ１とＳＥ１が同時期のようである。

今回の調査地は、遺構の状況から古墳時代後期の集落の一部のようである。当遺跡を挟んで加賀田川の右岸でも小塩遺跡や加塩遺跡のように同時期の遺跡が分布している。調査の結果から、加賀田川の段丘上には古墳時代の集落が分布し、当調査区では鉄滓(図版７)が出土することから工房のようなものがあった可能性もある。　(尾谷)

第２節　清水遺跡（SMZ02－２）



第16図　調査区位置図（1/3000）

１　概略

清水遺跡は、大阪府河内長野市清水に所在する。天見川右岸の河岸段丘上に位置し、標高は約176mを測る。

当遺跡はこれまで小規模な発掘調査は行っているが、遺構があまり検出されていないため、性格など不明な点が多い(註1)。

しかし周辺遺跡の調査では、北西800mの岩瀬北遺跡で、14～15世紀の掘立柱建物や溝、土釜埋納遺構などの遺物が確認されている(註2)。また、南西200mの千早口駅南遺跡では、15世紀の生活雑器とともに仏具が出土し、検出遺構が寺院跡(旧薬師寺跡)であることが確認されている(註3)。

本次調査は個人住宅の建築に先立ち実施した。調査区は建物の基礎工事の切土で影響を受ける可能性のある範囲について２ヵ所設定した。調査面積は約２㎡である。

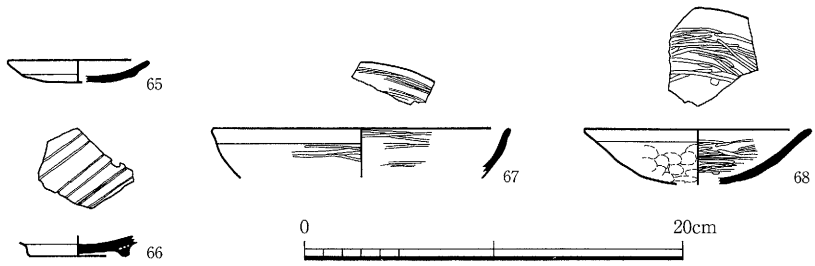
２　調査の方法

調査は、建設予定地内に第１調査区を１ｍ×0.8m、第２調査区を１ｍ×１ｍの規模で設定し、人力による掘削を行った。基本層序は表土(層厚0.15m)、褐色礫混じり細砂(同0.55m)、地山は黄褐色礫混じり粘土であった。褐色礫混じり細砂は中世の包含層であり、土師質土器皿・土釜、瓦器皿・椀が出土した。

遺構検出は地山である黄褐色礫混じり粘土層上で行ったが、遺構は検出されなかった。また、工事に伴う掘削は地山まで及ばず、保護層が確保されることから、調査区の位置と断面の写真撮影のみを行った。

3　遺物

本次調査では包含層から若干の中世の遺物が出土した。ほとんどが細片であったが、可能な限り図化を行った。第１調査区から出土した遺物には土師質土器皿・土釜、瓦器皿(65)・椀(66)、第２調査区から出土した遺物には瓦器椀(67・68)があった。



第17図　第１・第２調査区包含層出土遺物実測図

4　まとめ

調査区が狭小なため、また遺構も検出されなかったため、当該地の遺構の保存状況は不明である。しかし、現在、建物が建っている地の表土下には厚い包含層があることから、将来、当該地及び付近の発掘調査において保存状況が良好である遺構が検出される可能性がある。今後の調査成果が期待される。　（鳥羽）

（註１）河内長野市教育委員会　2001年３月　『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XVII　上原北遺跡　昭栄町遺跡　清水遺跡　大日寺遺跡　天野山金剛寺遺跡』

（註２）河内長野市遺跡調査会　2000年２月　『河内長野市遺跡調査会報XX　市町西遺跡　岩瀬北遺跡　汐の宮町南遺跡』

（註３）河内長野市遺跡調査会　1992年３月　『河内長野市遺跡調査会報Ⅳ　千早口駅南遺跡調査概報』

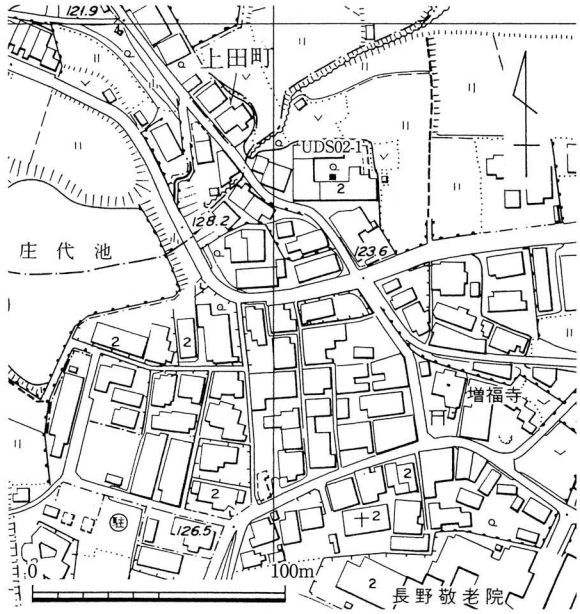
第３節　上田町宿跡（UDS02－１）

１　概略

上田町宿跡は、大阪府河内長野市上田町に所在する。天見川左岸の河岸段丘上に位置し、標高は約120mを測る。

当遺跡はこれまで発掘調査を実施していないため、性格などは不明である。

しかし、江戸時代の『上田村絵図』では高野街道沿いに上田宿の様子が描かれており、宿跡の範囲は現地形からも窺うことができる(註1)。



第18図　調査区位置図（1/3000）

周辺調査では、調査区の北西約50mに位置する高野街道沿いの烏帽子形城跡の調査で、古墳時代後期、平安時代から近世までの遺構、遺物が出土している(註2)。

本次調査は個人住宅の建築に先立ち実施した。調査区は建物の基礎工事の切土で影響を受ける可能性のある範囲について１ヵ所設定した。調査面積は約２㎡である。

２　調査の方法

調査は、建設予定地内に1.5m×1.5mの規模の調査区を設定し、人力による掘削を行った。基本層序は盛土(層厚1.3m以上)のみを確認し、包含層及び地山は調査当初の予想に反して盛土の層厚が厚いため、確認できなかった。

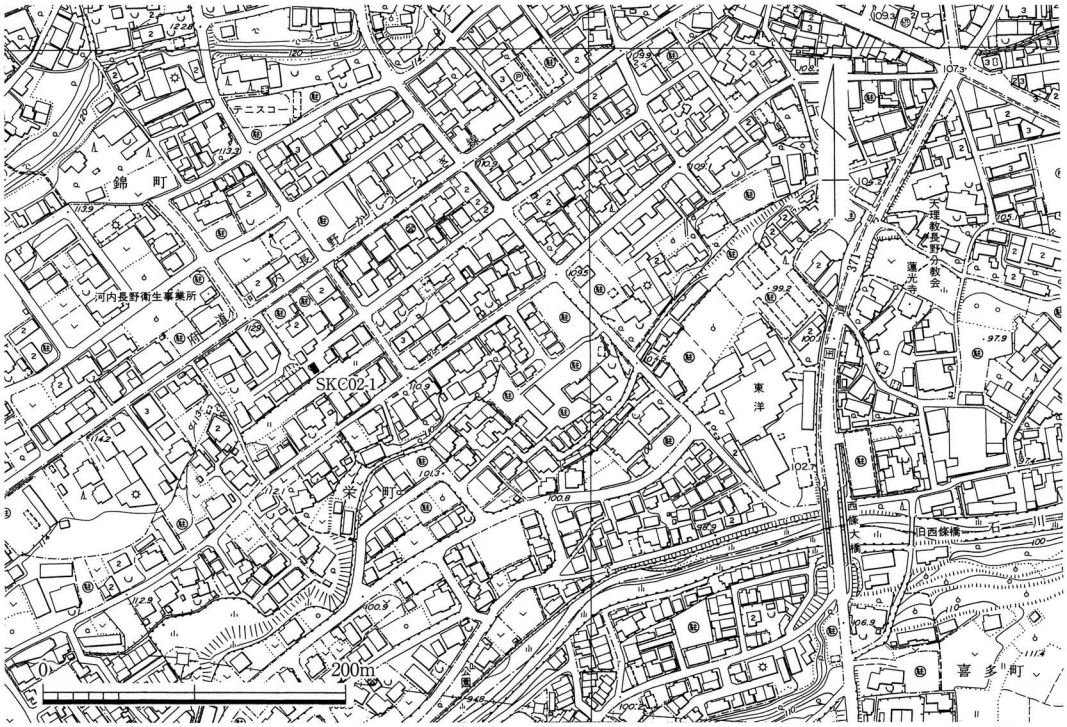
３　まとめ

調査の結果、調査区が狭小なため、また遺構面まで掘削が及ばなかったため、当該地の遺構の保存状況は不明である。今後の調査成果が期待される。　（鳥羽）

（註１）河内長野市教育委員会　1983年３月　『河内長野市文化財調査報告書第７輯　河内長野の古絵図』

（註２）河内長野市教育委員会　1997年３月『河内長野市文化財調査報告書第28輯　河内長野市埋蔵文化財調査報告書XIII　小塩遺跡　長野神社遺跡　大日寺遺跡　烏帽子形城跡　三日市遺跡　神ガ丘近世墓』

第４節　栄町遺跡（SKC02－１）



第19図　調査区位置図（1/5000）

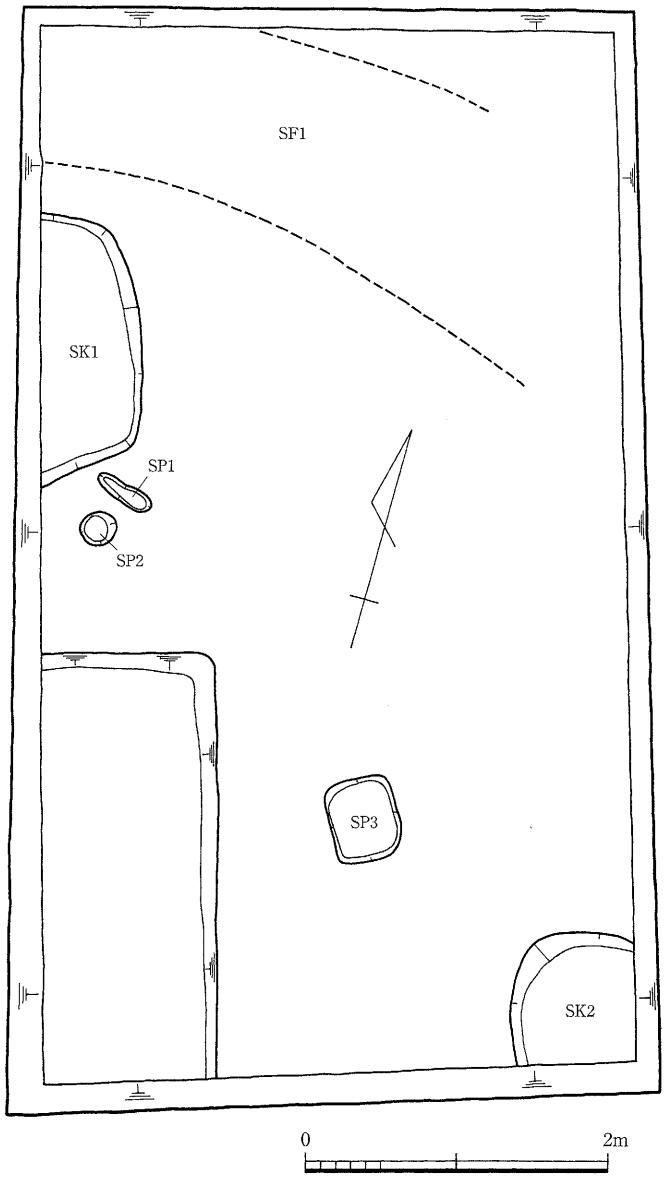
１　概略

栄町遺跡は、大阪府河内長野市栄町に所在する。石川左岸の河岸段丘上に位置し、標高は約112mを測る。この段丘は当遺跡より南西約2.5kmの高向付近から２段の段丘を形成し、標高が128～150mの中位段丘、109～122mの低位段丘に分けられる。従って、当遺跡は石川左岸の低位段丘上に位置することになる。

当遺跡はこれまで小規模な発掘調査しか行われていないが、出土した遺物から弥生･中世の遺跡であることは認識されていた。しかし、遺構があまり検出されていないため、性格など不明な点が多かったが、近年の調査から、当遺跡周辺に弥生時代の落ち込みがあると考えられている(註1)。

その他に周辺の調査から、当遺跡の様相を垣間見ることができる。北西200mの錦町北遺跡では、中世の石組み遺構や近世の井戸・石組み遺構・溝などの遺構が検出され、弥生中期の土器も確認されている(註2)。また、南西700mの栄町南遺跡では、掘立柱建物２棟のほか土坑などを検出した。明確な時期は不明だが、おおよそ12～13世紀に相当するものと考えられている。

本次調査は個人住宅の建築に先立ち実施した。調査区は建物の基礎工事の切土で影響を受ける範囲について設定した。調査面積は28㎡である。



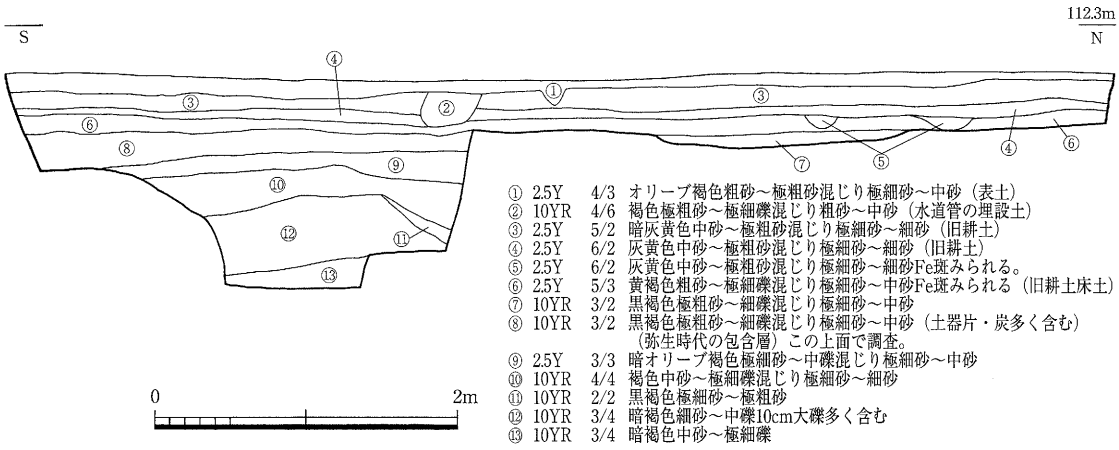
第20図　遺構配置図（1/50）

2　調査の方法

調査は、建設予定地内に７×４ｍの調査区を設定し、まず機械による掘削を行った。現地表面から約0.3m掘削したところで部分的に黒色層を検出した。そのため、人力による掘削を行い、黒色層上面で遺構の検出を行った。また、黒色層の堆積を確認するため、調査区の一部を深く掘削したところ、黒色の極細砂層や礫層を確認したが、工事に伴う掘削深度以下であったため、断面による記録のみ行った。

3　層序

層序は大きく５層に分けられる。上層から現代盛土①、耕土③・④、床土⑥が堆積している。そして下層に、弥生時代の包含層である黒褐色の極細砂～中砂層⑧がある。調査区の位置的にも、この層は前回の調査(註1)で存在が想定されている局所的な落ち込みと同じ



第21図　調査区土層断面実測図（1/50）

層と考えられる。その黒褐色層の下層には、礫混じりの褐色系の層⑨～⑬が堆積している。土壌化の弱い層であり、一部黒褐色の⑪層があるが、礫が多く含まれていることから、調査区の西方向、段丘上段からの洪水などに伴う堆積層と考えられる。これらの層以下は、工事の安全上掘削ができなかった。したがって明確な地山層は確認できていない。

4　遺構と遺物

今回の調査は、黒褐色層の上面で遺構の検出を行った。その結果、ピットや土坑などが確認できた。遺物は、遺構検出時に黒褐色層内から弥生土器が数点出土した。しかし、多くが細片で、実測できたのは壺(69)だけであった。以下、検出した遺構について説明する。

（1）道

［ＳＦ１］

調査区の北側で検出した。南北1.2m、東西3.5mほどの範囲の土が堅くしまっている。断面観察でも特に盛土をした痕跡は見られなかったが、里道などの可能性も考えられる。

（2）土坑

［ＳＫ１］

調査区の西側で検出した。平面形は方形で、調査区外に広がるため正確な規模は不明だが、南北1.7m、東西0.7m以上、深さ0.18mを測る。埋土は、黒褐色極細砂～中砂で弥生時代の包含層と同じである。遺物が出土していないため、時期は不明だが、床土形成以前に掘削された遺構と考えられる。

［ＳＫ２］

調査区の南東隅で検出した。調査区外に広がるため正確な平面形は不明だが、南北0.8m以上、東西0.8m以上、深さ0.25mを測る。埋土は、黄褐色極細砂～中砂に黒褐色極細砂がブロック土で混じる。

遺物は出土しなかった。

（3）ピット

［ＳＰ１］

調査区の西側で検出した。平面形は東西に伸びる溝状で、南北0.1m、東西0.4m、深さ0.04mを測る。埋土は、灰黄色極細砂～細砂で旧耕土と同じ層である。旧耕土に伴う遺構と考えられる。

遺物は出土しなかった。

［ＳＰ２］

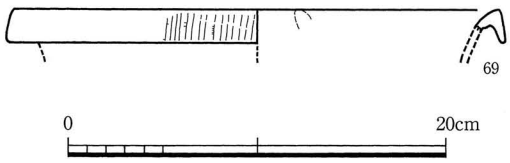
調査区の西側で検出した。平面形は円形で径0.2m、深さ0.08mを測る。埋土は、黄褐色極細砂～中砂に黒褐色極細砂がブロック土で混じる。床土層形成時に伴う遺構と考えられる。

遺物は出土しなかった。

［ＳＰ３］

調査区の南側で検出した。平面形は方形で南北0.05m、東西0.4m、深さ0.06mを測る。埋土は、黄褐色極細砂～中砂に黒褐色極細砂がブロック土で混じる。

遺物は出土しなかった。



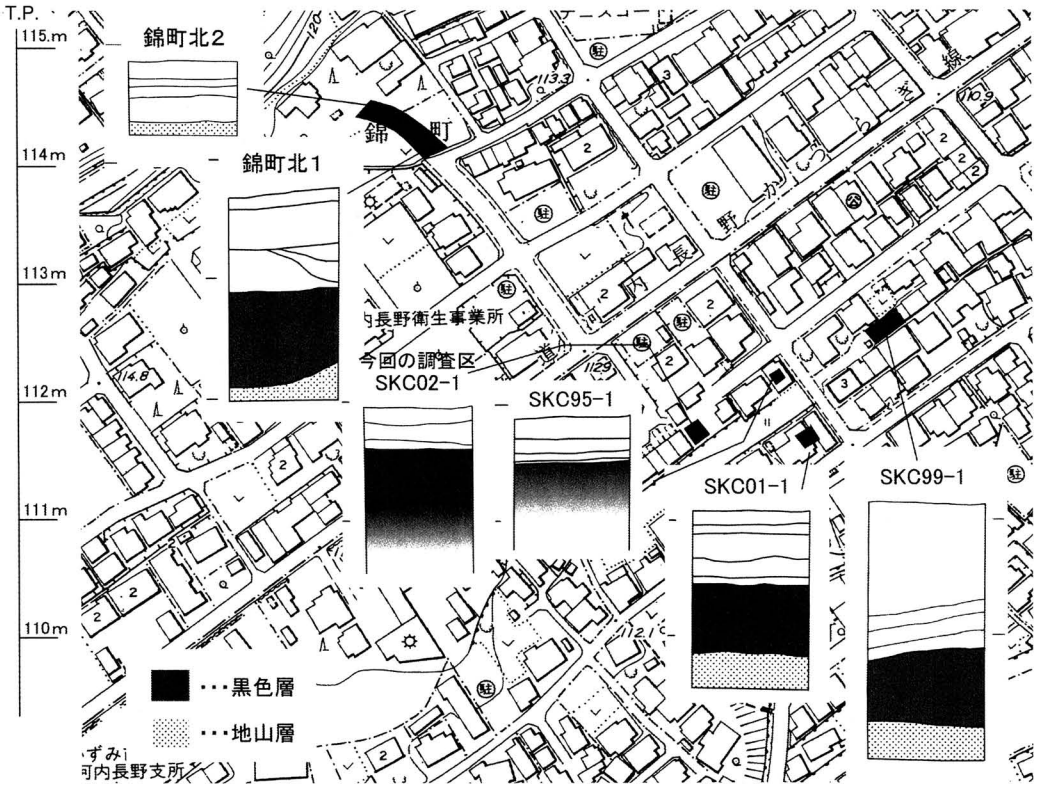
第22図　黒色包含層出土遺物実測図および写真

5　まとめ

今回の調査は、弥生時代の包含層である黒褐色層の上面で調査を行った。これまでの調査から、中世の遺構の検出も期待されたが、検出された遺構には、時期を特定できるものはなかった。しかし、断面観察の結果、黒褐色層の分布範囲が確認され、弥生時代の落ち込みの範囲が広がることが確認された。そこで、これまでの調査結果を踏まえ、字名なども考慮に入れて、当遺跡周辺の状況を考えてみたい。また、当調査区より南に1.5kmの三日市北遺跡では、当遺跡と同じ弥生時代中期の集落跡が調査されている。そこで、これらの遺跡を含めた河内長野市内の弥生時代の遺跡についても若干整理してみたい。

◆栄町遺跡周辺の地形復元

「河内長野市埋蔵文化財調査報告書XⅧ」(2001)では、栄町遺跡で行われた過去の調査区について整理した。そして、弥生時代中期(土器様式で畿内第Ⅲ～Ⅳ様式頃)に当遺跡周辺



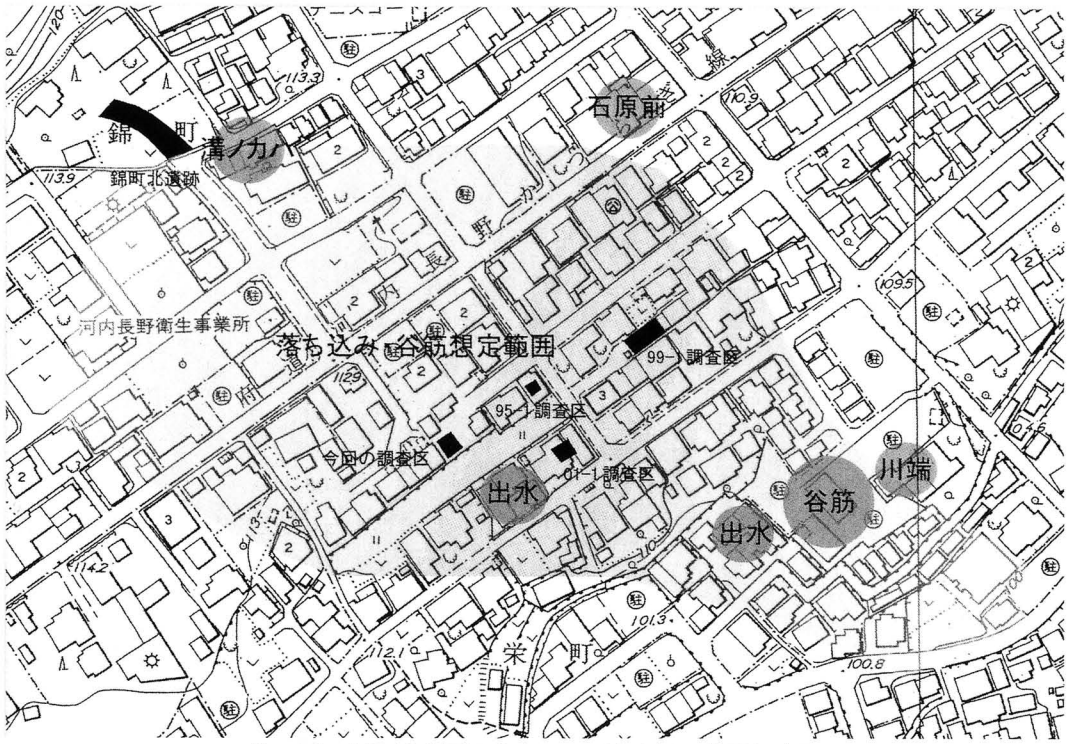
第23図　栄町遺跡周辺調査区土層断面模式図

に落ち込みがあることを想定した。

今回の調査区は、ＳＫＣ95－１調査区の南西約50mに位置している。そして、前述したように黒褐色層が確認され、弥生土器が出土した。細片であるため、土器の時期を特定することは難しいが、過去の調査区と近接していることから、これらの層や土器は、これまで確認した落ち込みの埋土と同じ性格のものと考えられる。

次に、栄町遺跡から北西に約200m離れた錦町北遺跡について見てみる。錦町北遺跡については前述したが、弥生時代の土器が若干出土している。それらは包含層と調査区南側にある自然流路の埋土から出土しており、時期もⅢ～Ⅳ様式頃であることから、当遺跡の時期と符合する。その様子を示すのが、「錦町北１」の断面である(第23図参照)。この自然流路からは、弥生土器の他に、土師質土器や陶磁器などが多く出土している。従って、当遺跡の落ち込みと直接つながる遺構ではない。しかし、流路が存在したことは、この辺りに落ち込みが存在していたことを示すものであろう。北側の「錦町北２」の断面については、北西側にある中位段丘に近づいているため、地山面までの層厚も少なく、流路なども検出されていない。

次に当遺跡周辺の字名について見てみる(第24図参照)。今回の調査区南東側、01－１調査区の南西側には「出水」がある。確かに01－１調査区の下層掘削中は、水が多く湧き出し、調査に困難をきたすほどであった。おそらく水道になっているものと考えられる。そして、その地点から東に100m程の所に同じ「出水」の字名が見られる。また、その北東側には「谷筋」「川端」が見られる。これらのことから考えると、この付近には谷状の落ち込



第24図　栄町遺跡周辺字名および落ち込み範囲想定図

みがあり、それはおそらく、北西側から伸びる落ち込みの続きであると考えられる。

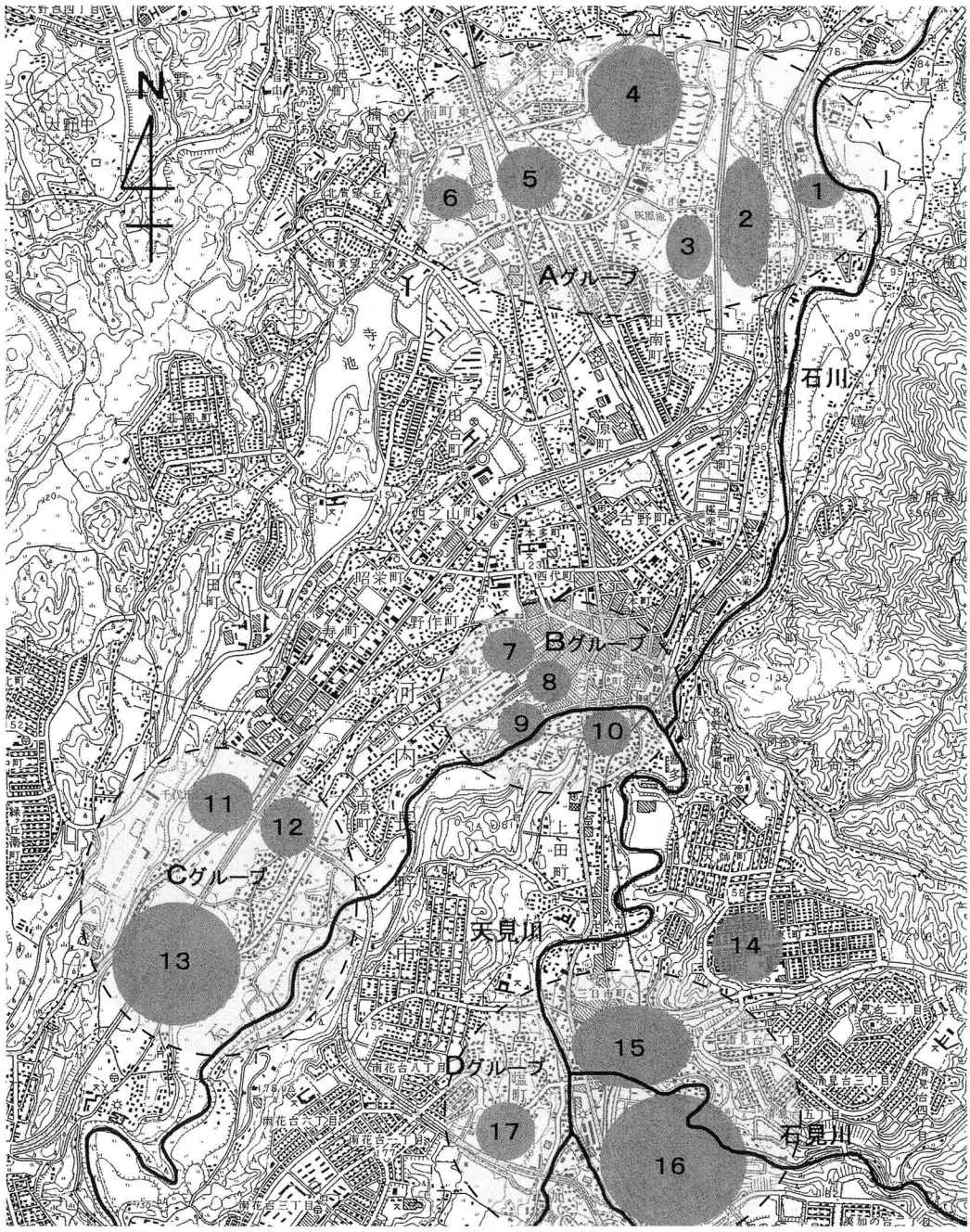
また、錦町北遺跡の付近には「溝ノカハ」、東側には「石原前」など、谷や流路に関連するような字名も見られる。それらのことを踏まえ、当遺跡周辺に広がる落ち込み・谷筋の範囲を推定すると第24図のようになる。しかし、落ち込みについては不明な点が多く、推定範囲よりも大きく広がる可能性もある。また、錦町北遺跡の自然流路の埋土には近世の陶磁器が含まれており、栄町遺跡の弥生時代の落ち込みとは、埋没時期が異なる。このことは、落ち込み推定範囲の大半は弥生時代に埋まったが、落ち込み北東側は、埋まりきらず、流路として機能した可能性も考えられる。

以上、栄町遺跡周辺の地形について復元を試みたが、これらはほとんど推測の域を出ない。また、落ち込みの範囲など今後の調査により変更があるかもしれないが、当遺跡周辺の石川左岸、河内長野市内の弥生時代の景観を復元する上での一助となるものと思われる。

◆河内長野市内の弥生時代の遺跡について

河内長野市内には、現在17ヵ所の弥生時代の遺跡が確認されている(第25図、第4表参照)。古くは高地性集落として著名な大師山遺跡、現在調査中で多くの竪穴住居群が検出されている三日市北遺跡などがある。しかし、多くの遺跡が顕著な遺構は確認されておらず、散布地として認識されている。

そのような弥生時代の遺跡の特徴をまとめると、前期の遺跡が全く見られず、一部大師山遺跡などで後期の遺跡も見られるが、ほとんどが中期、土器様式で畿内第Ⅲ～Ⅳ様式の



第25図　河内長野市内弥生時代遺跡分布図（図中の数字は第４表と対応）

	遺跡名	種類	時期	土器様式	内容
1	汐の宮町南遺跡	散布地	中期	Ⅱ末～Ⅲ初め	甕、高坏、石鏃
2	市町東遺跡	散布地	中期	Ⅲ	壺、鉢片、石鏃
3	市町西遺跡	散布地	不明		底部のみ
4	塩谷遺跡	散布地	中期	Ⅲ様式	石鏃、石槍、磨製蛤刃石斧、石包丁
5	菱子尻遺跡	散布地	中期？		石鏃、剥片
6	楠町東遺跡	散布地	不明		
7	錦町北遺跡	散布地	中期	Ⅲ～Ⅳ様式	
8	栄町遺跡	散布地	中期	Ⅲ～Ⅳ様式	谷状地形？
9	栄町東遺跡	散布地	不明		
10	大日寺遺跡	散布地	中期～後期？	Ⅲ～Ⅴ？	溝、壺、甕、石鏃、方形周溝墓？
11	上原遺跡	散布地	不明		細片
12	上原東遺跡	散布地	不明		
13	高向遺跡	散布地	中期	Ⅲ～Ⅳ様式	土坑（墓？）サヌカイト片
14	大師山遺跡	集落・生産	後期	Ⅴ様式	竪穴住居跡、焼土坑、石鏃、砥石、石皿
15	三日市北遺跡	集落	中期	Ⅲ～Ⅳ様式	竪穴住居跡、石器
16	三日市遺跡	集落	中期	Ⅲ～Ⅳ様式	竪穴住居跡、石器
17	小塩遺跡	散布地	不明		

第４表　河内長野市内の弥生時代遺跡

時期のものという事である。前期や後期については今後発見される可能性もあるが、大きく遺跡の消長を変えるものではない。

次に、それら中期の遺跡群の分布状況を比べると４つのまとまりが見られる。それは、市域北側の塩谷遺跡を中心とするグループ(A)、栄町遺跡を中心とするグループ(B)、高向遺跡を中心とするグループ(C)、三日市北遺跡を中心とするグループ(D)である。

Ａグループは、ほとんど散布地の遺跡で遺構などは不明だが、土器も多く出土し、石鏃や石斧、石包丁など石製品も多く検出されている。したがって、集落跡である可能性が高い。次にＢグループであるが、顕著な遺構は見られず、本稿でも報告したような落ち込みの存在が想定されている程度である。遺物量も少なく、散漫な状況といえる。Ｃグループも Ｂグループと同じような状況で、遺構・遺物とも少ない。それらに比べてＤグループは、近年の調査から弥生時代中期の大規模な集落跡であることが判明しており、後期には大師山遺跡、古墳時代には三日市遺跡、小塩遺跡など天見川を挟んだこの地域周辺に、集落が展開する。

以上のことから、改めて栄町遺跡周辺を考えると、遺構的には不明だが、遺物的には積極的に集落跡とはいえない状況である。しかし、遺物が少ないながらも存在することは事実であり、弥生時代の人々の営みがあったことは間違いない。そこで、考えられるのは、ＡグループやＤグループなどのような大規模な集落ではなく、小規模な集落であった可能性である。また、それらの集落を支えた耕作地であった可能性もあるだろう。いずれにせよ現在の資料では、可能性に過ぎないが、今後当遺跡周辺や、西側に南北に伸びる小山田丘陵での状況が判明すれば、当遺跡周辺の弥生時代の状況、河内長野市内での位置付けなども明らかになるであろう。

(福田)

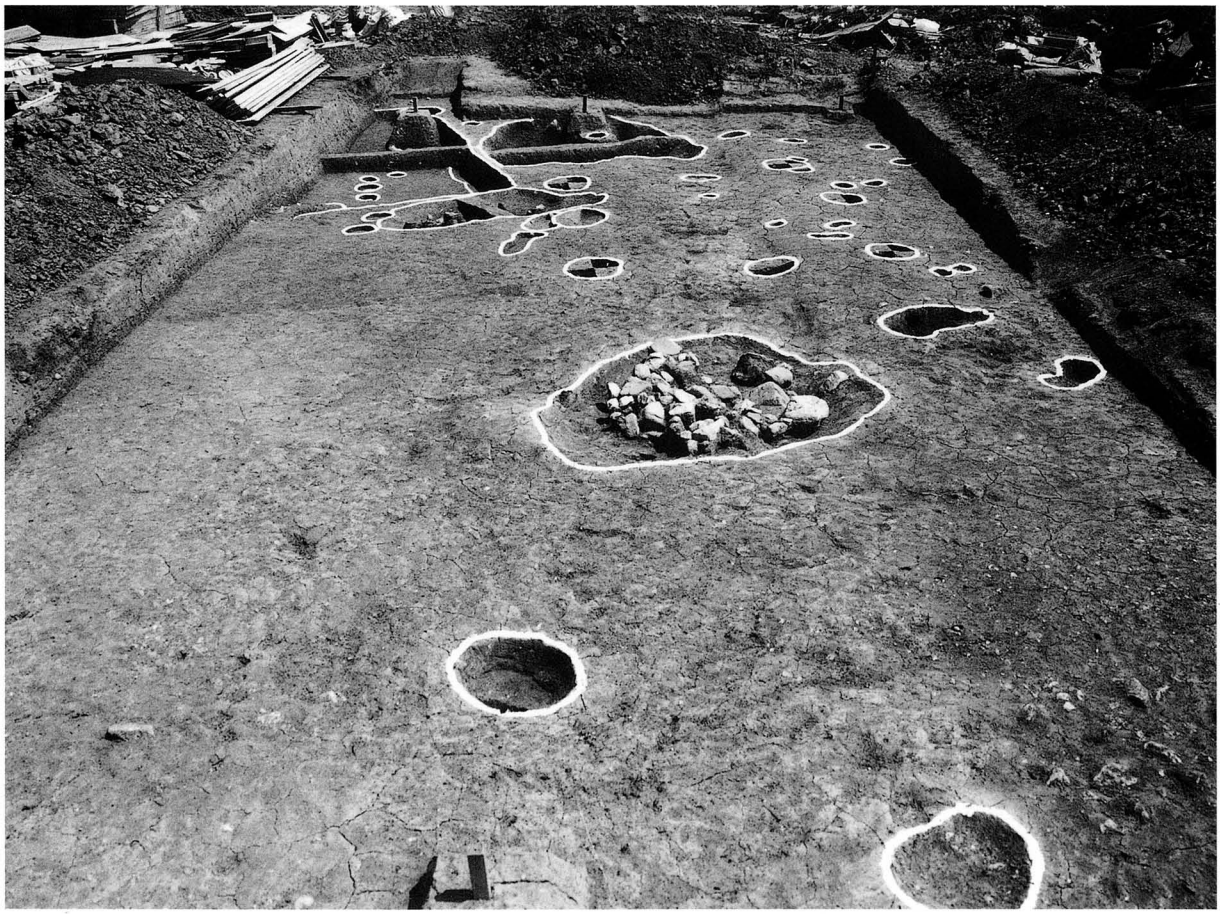
(註１) 河内長野市教育委員会　2002年３月　『河内長野市埋蔵文化財調査報告書XVIII　栄町遺跡　三日市遺跡　三日市北遺跡・三日市宿跡』

(註２) 河内長野市遺跡調査会　1996年３月　『河内長野市遺跡調査会報XIV　錦町北遺跡』

図　　版

図版1　尾崎北遺跡（OSN97—1）

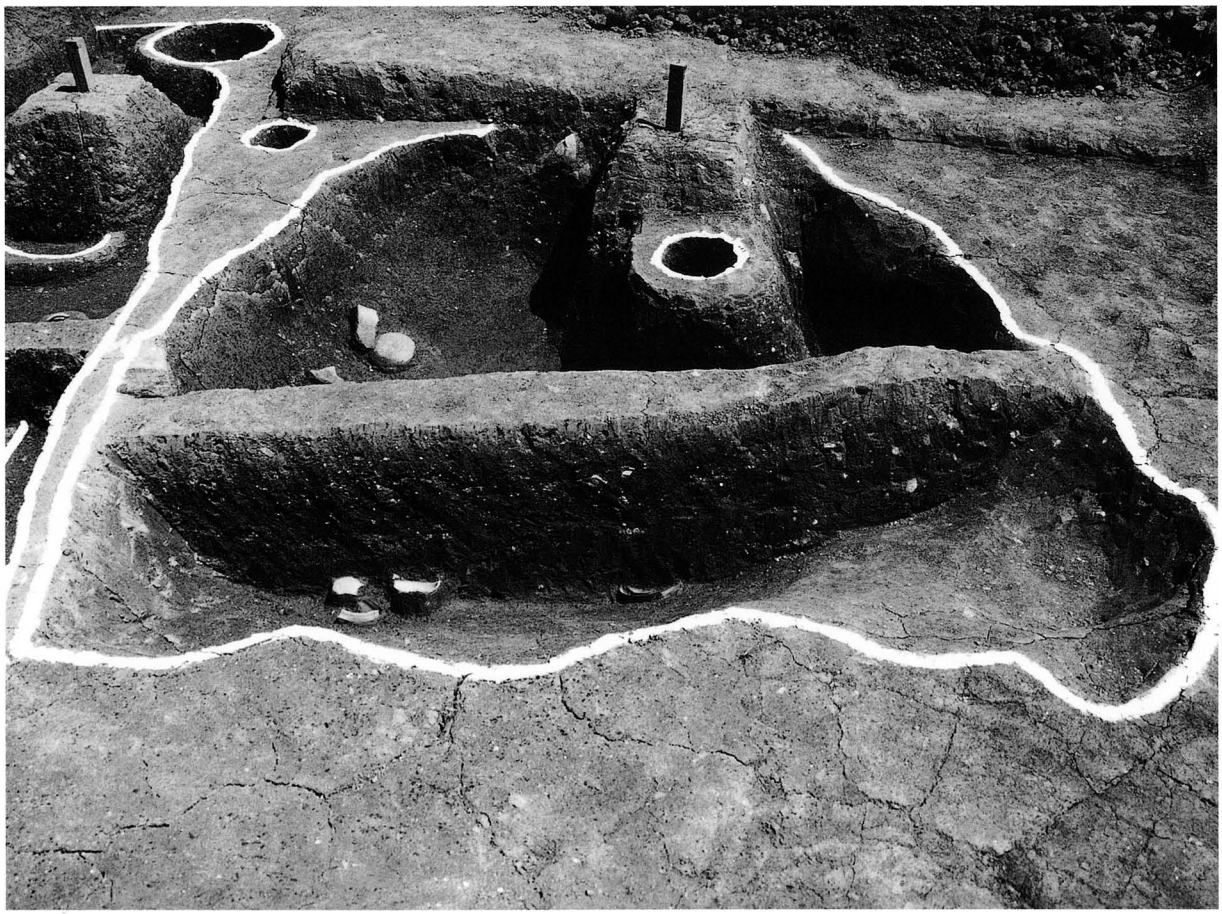
調査区全景（南東から）



調査区全景（北西から）

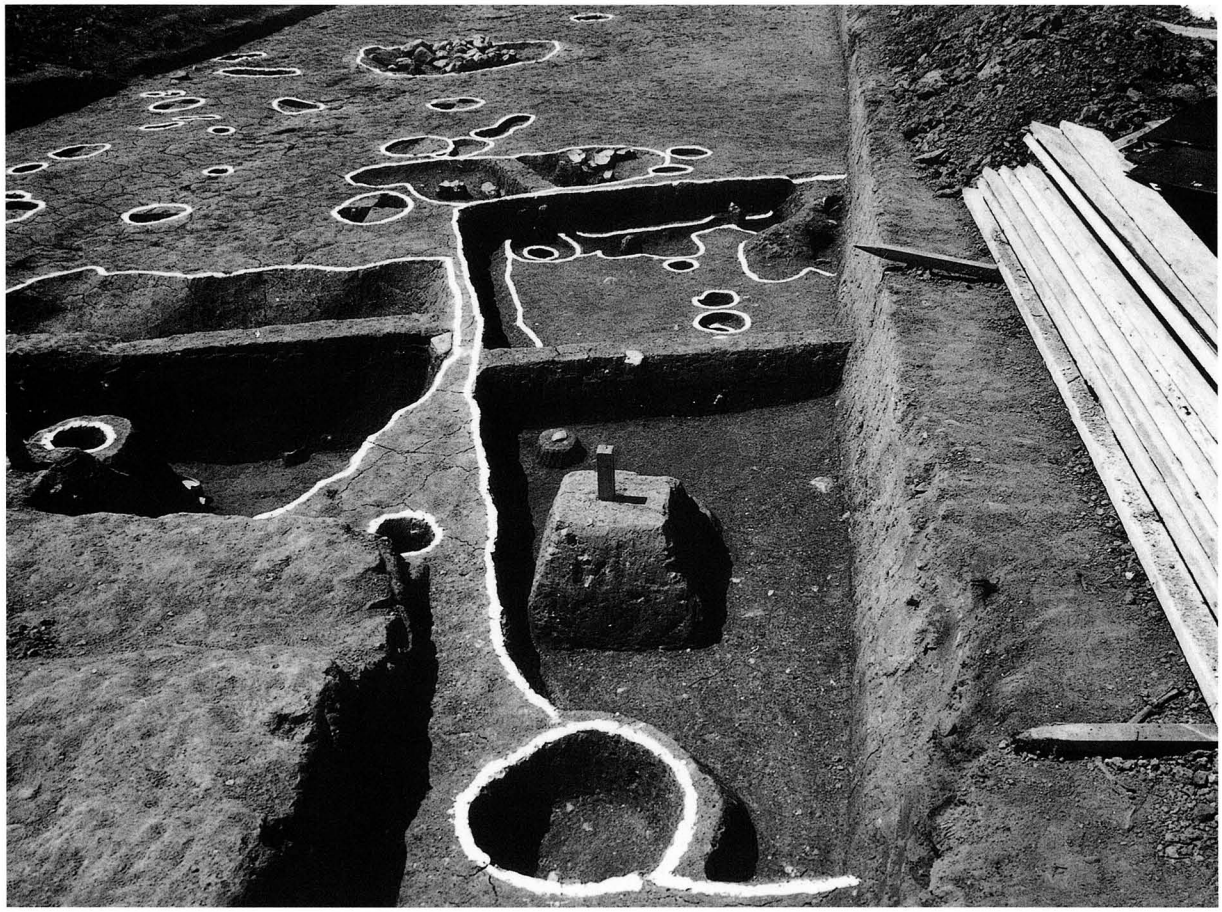
図版2　尾崎北遺跡（OSN97—1）

SB1（南から）

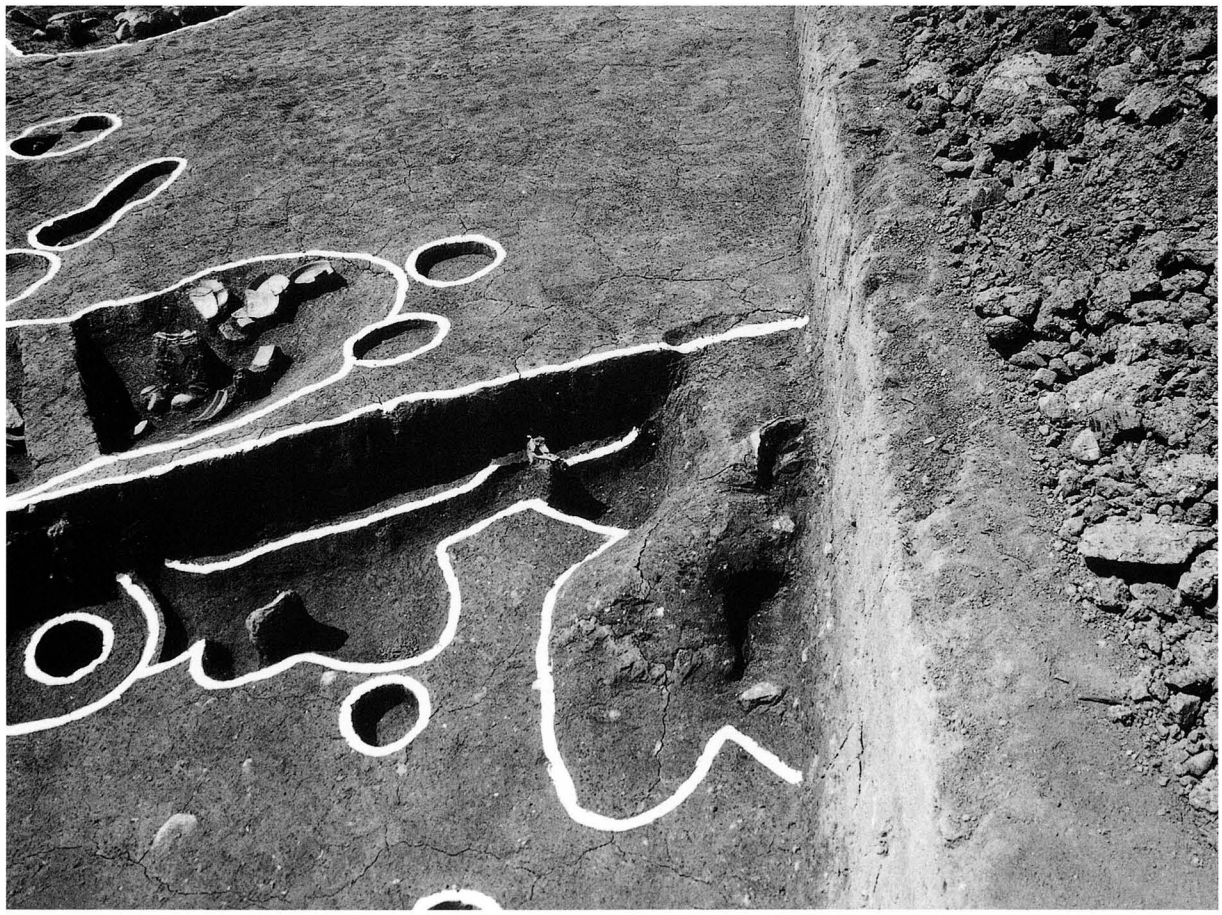


SE1（北西から）

図版3　尾崎北遺跡（OSN97—1）



ＳＩ１（南東から）



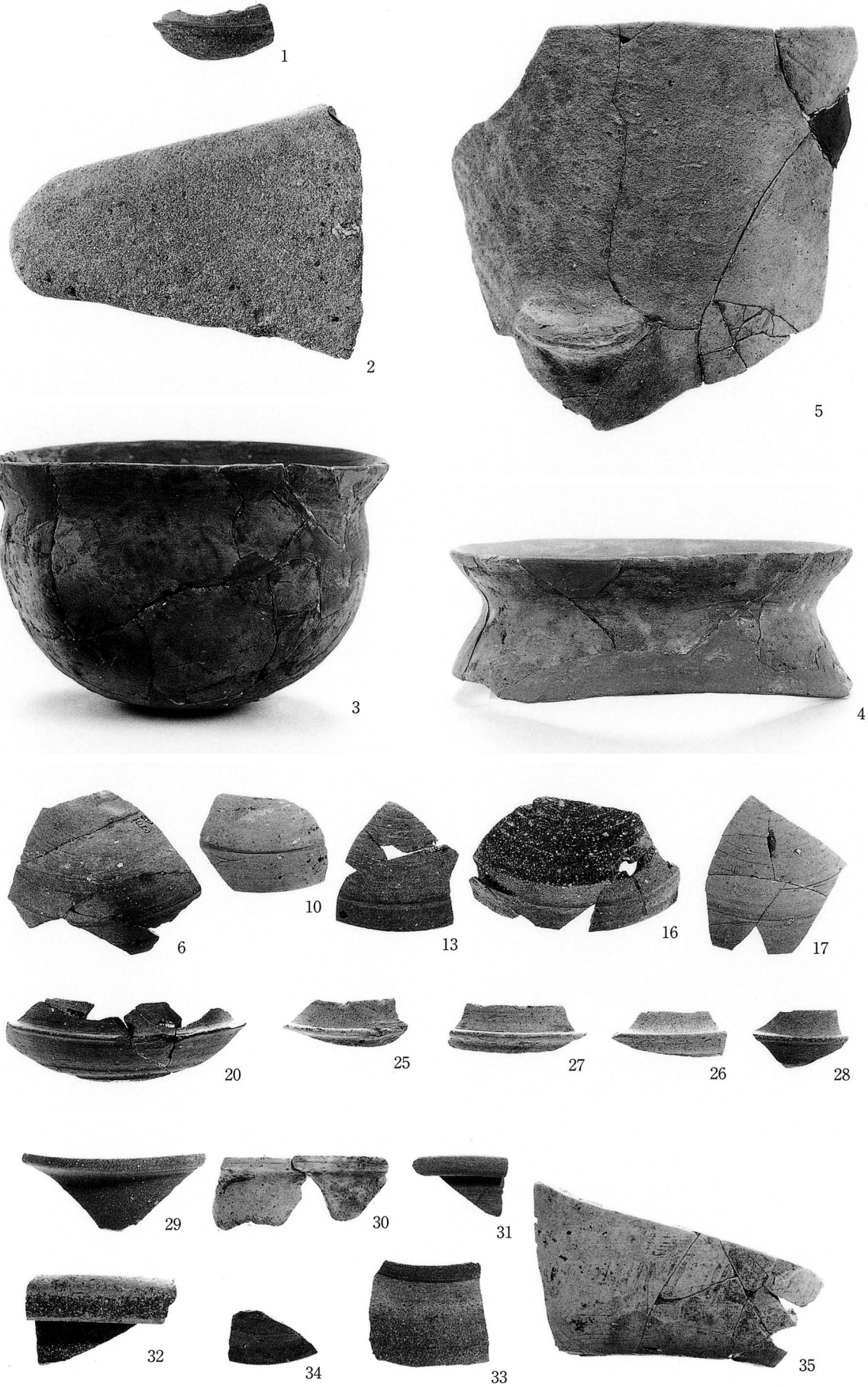
ＳＩ１竈（南東から）

図版4　尾崎北遺跡（OSN97—1）

SK1（北西から）

SU1（南から）

図版5　尾崎北遺跡（OSN97—1）



SB1（1）、SE1（2～6・10・13・16・17・20・25～35）

7

8

9

11

12

14

15

18

19

21

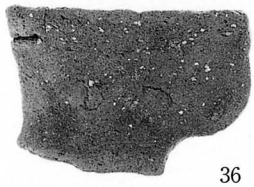
22

23

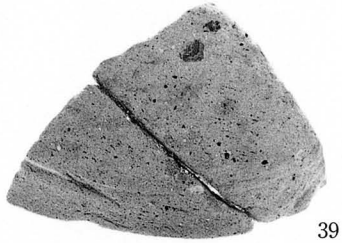
ＳＥ１（7～9・11・12・14・15・18・19・21～23）

24

鉄滓



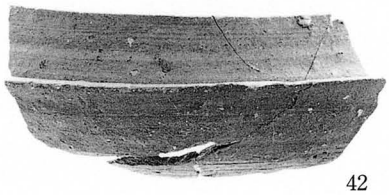
36



39

40

38



42

41

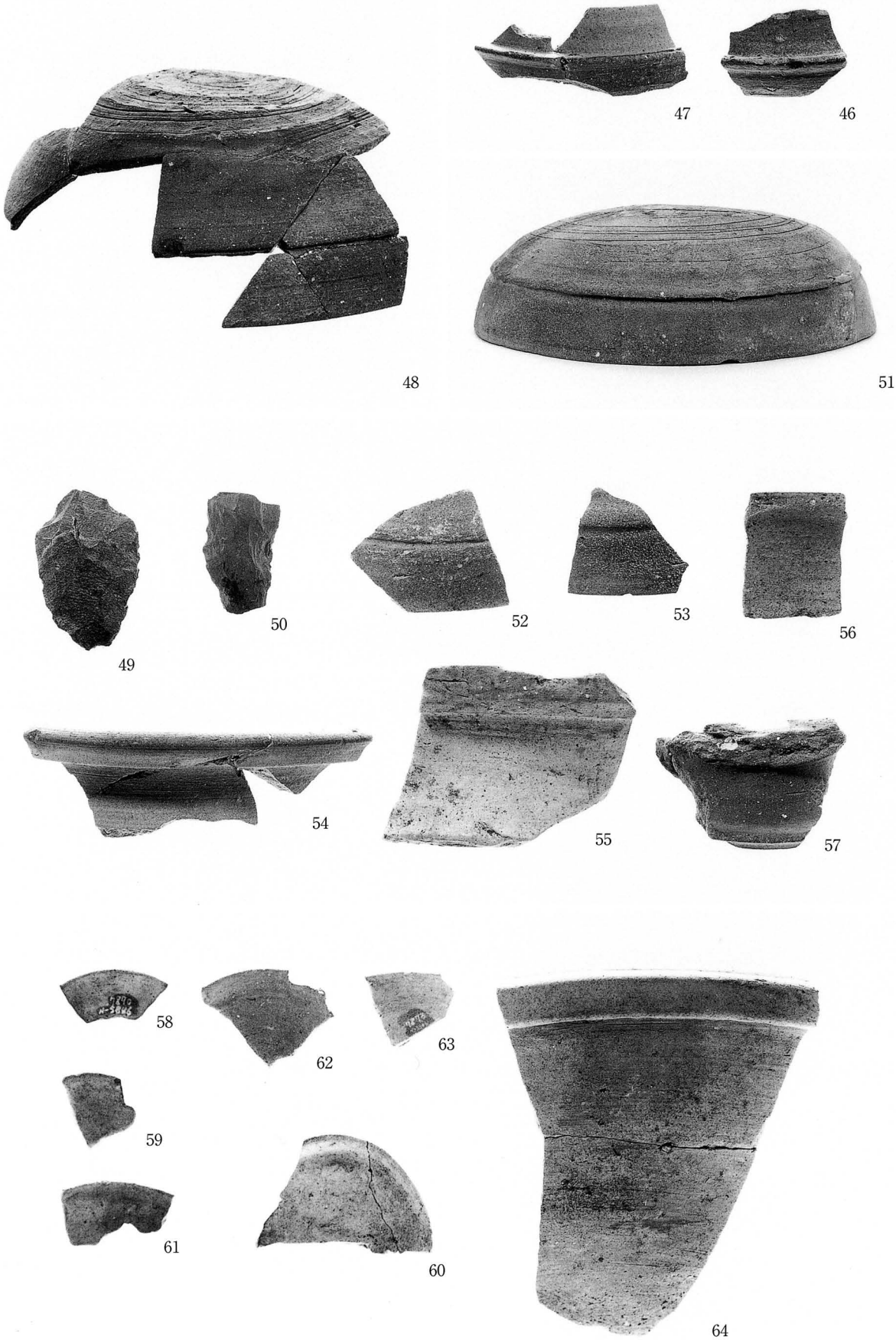
43

37

44

45

ＳＥ１（24・鉄滓）、ＳＩ１（36～42）、ＳＫ１（43～45）



ＳＫ１（46･47）、ＳＵ１（48）、包含層（49～64）

図版9　清水遺跡（SMZ02—2）

第1調査区全景（南から）

第2調査区全景（北から）

図版10　上田町宿跡（UDS02—1）

調査風景

調査坑断面（南から）

図版11　栄町遺跡（SKC02—1）

調査区全景（東から）

調査区西壁土層

報 告 書 抄 録

ふりがな	かわちながのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書　　名	河内長野市埋蔵文化財調査報告書
副 書 名	尾崎北遺跡・清水遺跡・上田町宿跡・栄町遺跡
巻　　次	XIX
シリーズ名	河内長野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第37輯
編著者名	尾谷雅彦　鳥羽正剛　福田和浩
編集機関	河内長野市教育委員会
所 在 地	〒586－8501　大阪府河内長野市原町396－3　TEL 0721－53－1111
発行年月日	2003年3月31日

所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
尾崎北遺跡（おざききたいせき） (OSN97-1)	大阪府（おおさかふ） 河内長野市（かわちながのし） 加賀田（かがた）	27216	府127 河 98	35°15′36″	135°34′15″	H9. 8. 21 ～ H9. 8. 29	約80㎡	宅地造成
清水遺跡（しみずいせき） (SMZ02-2)	大阪府（おおさかふ） 河内長野市（かわちながのし） 清水（しみず）	27216	府 35 河 31	34°24′45″	135°35′27″	H14. 6. 26 ～ H14. 6. 27	約2㎡	専用住宅建築
上田町宿跡（うえだちょうしゅくあと） (UDS02-1)	大阪府（おおさかふ） 河内長野市（かわちながのし） 上田町（うえだちょう）	27216	府173 河143	34°26′20″	135°34′13″	H14. 6. 27 ～ H14. 6. 28	約2㎡	専用住宅建築
栄町遺跡（さかえちょういせき） (SKC02-1)	大阪府（おおさかふ） 河内長野市（かわちながのし） 栄町（さかえちょう）	27216	府152 河115	34°26′48″	135°34′05″	H14. 12. 2 ～ H14. 12. 5	28㎡	専用住宅建築

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
尾崎北遺跡	集　落	古　墳	竪穴住居 掘立柱建物 井戸・土坑	石器・土師器 須恵器	
清水遺跡	散布地	中　世		土師質土器 瓦器	
上田町宿跡	宿跡に 伴う街並				
栄町遺跡	散布地	弥　生	土坑 ピット	弥生土器	

河内長野市文化財調査報告書第37輯
河内長野市埋蔵文化財調査報告書XIX

2003年3月31日発行

発　行　大阪府河内長野市原町396－3
河内長野市教育委員会
0721－53－1111
印　刷　㈱中島弘文堂印刷所